

鮭 鱒 彙 報

號一十四第 · 年一十第

日五十月一十年五十和昭

會協護保鱒鮭道海北

(內場化鱒鮭道海北島之中外市幌札)



國民精神總動員

學國一致
盡忠報國
堅忍持久

北海道鮭鱒保護協會々則

- 第一條 本會ハ鮭鱒其ノ他ノ養殖事業並ニ鮭鱒漁業ノ改善發達ト關係業者ノ連絡緊密ヲ圖リ以テ漁利ノ維持増進ヲ期スルヲ目的トス
- 第二條 本會ハ北海道鮭鱒保護協會ト稱シ北海道鮭鱒孵化場内ニ置ク
- 第三條 本會ハ北海道鮭鱒保護協會ト稱シ北海道鮭鱒業者及鮭鱒其ノ他ノ養殖事業並ニ漁業ニ關係スル者ヲ以テ組織ス
- 第四條 本會ハ北海道鮭鱒保護協會ト稱シ北海道鮭鱒業者及鮭鱒其ノ他ノ養殖事業並ニ漁業ニ關係スル者ヲ以テ組織ス
- 第五條 本會ハ北海道鮭鱒保護協會ト稱シ北海道鮭鱒業者及鮭鱒其ノ他ノ養殖事業並ニ漁業ニ關係スル者ヲ以テ組織ス
- 第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 一 會長ハ總會ニ於テ選出スル
 - 二 副會長ハ總會ニ於テ選出スル
 - 三 理事ハ總會ニ於テ選出スル
 - 四 監事ハ總會ニ於テ選出スル
 - 五 其ノ他ノ必要ト認ムル事項
- 第七條 役員ハ總會ニ於テ選出スル
- 第八條 役員ハ總會ニ於テ選出スル
- 第九條 役員ハ總會ニ於テ選出スル
- 第十條 役員ハ總會ニ於テ選出スル
- 第十一條 役員ハ總會ニ於テ選出スル
- 第十二條 役員ハ總會ニ於テ選出スル
- 第十三條 役員ハ總會ニ於テ選出スル
- 第十四條 役員ハ總會ニ於テ選出スル
- 第十五條 役員ハ總會ニ於テ選出スル

目次

- 祝 辭
 - 西別孵化場から虹別孵化場へ……………北海道廳長官 戸塚九一郎 (二)
 - 虹別支場創立五十周年を迎へて……………北海道廳水産課長 半田芳男 (三)
 - 虹別孵化場創立五十周年を祝す……………北海道廳鮭鱒孵化場長 野田信俊 (五)
 - 虹別孵化場創立五十周年を祝し所感を陳ぶ……………北海道水産會長 山本厚三 (七)
 - 虹別支場創立五十周年を祝す……………農林省水産局農林技師 徳久三種 (八)
 - 虹別支場創立五十周年記念祝辭に代へて……………函館高等水産學校長 佐々茂雄 (一〇)
 - 鮭鱒孵化場回顧五十年……………理學博士 藤田經信 (一四)
 - 虹別支場創立五十周年と迎へて……………虹別支場長 石井久次 (一八)
 - 虹別孵化場創立五十周年に際して……………菊地覺助 (三〇)

沿革史

追憶
在職二十有余年を顧みて……………札幌市 内海重左工門 (一六)

虹別の思い出	水試稚内支場長	田中林藏(四)
虹別懐古	東北帝大理學博士	小久保清治(四)
虹別の想出を語る	釧路市	嵯峨久(四)
虹別孵化場の昔を語る	根室町	八木安太郎(四)
虹別支場創立五十周年に當り鮭鱒養殖功勞者故小池先生を追慕して	根室鮭鱒養殖水産組合書記長	守谷金太郎(四)
虹別回顧	標茶村	木下堅三(五)
虹別に於ける追憶	東京市	上平八郎(五)
虹別の昔	室蘭町	小池庚吉(五)
虹別の想ひ出	中標津	富永眞佐利(五)
——論 說——		
沿海州の樺太鱒に就て	北海道水産試験場	平野義見(六)
石狩川に於ける鮭親魚の採卵に就て	北海道鮭鱒孵化場	岸田敏明(六)
會報		(七)

高橋鐵次郎氏
(初代)

根室外二郡水産組合經營時代西別孵化場主任
(明治二三—二四)



三澤 延吉氏 (二代)
根室外二郡水産組合經營時代西別孵化場主任
(明治三四—三五)



古澤 鴻三氏 (三代)
根室外二郡水産組合經營時代西別孵化場主任
(明治三五—三九)



山下 平造氏 (四代)
北海道水産試験場西別分場主任
(明治四〇—四五)



内海 重左衛門氏 (五代)
北海道水産試験場西別支場主任
(明治四五—大正八)
北海道水産試験場西別支場長
(大正八—昭和四)
北海道廳西別鮭鱒孵化場長
(昭和四—六)



稲垣 龍氏 (現組合長)



小池 仁 郎氏 (前組合長)



石井 久 治氏 (七代)
北海道鮭鱒孵化場虹別支場長
(昭和二年—現在)



田中 林 藏氏 (六代)
北海道鮭西別鮭鱒孵化場長
(昭和六年—七)
北海道鮭虹別鮭鱒孵化場長
(昭和七年—九)
北海道鮭鱒孵化場虹別支場長
(昭和九年—十四)



景の部内室化野在現



池魚養の在現



明治四十年頃の
虹別孵化場全景



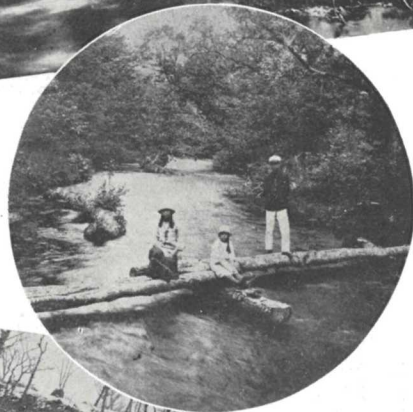
現在の虹別孵化場全景



明治三十七・八年頃の
西別孵化場事務室



滝のスツオ内構場化孵



内構場化孵
近附池源水川別西

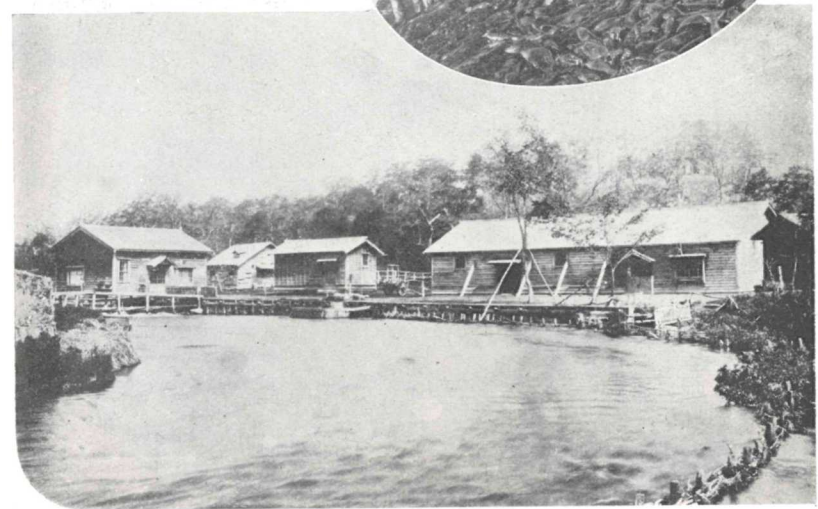


近附池源水北内構場化孵



西別川親魚湖上の景

理處の魚親獲捕



景全場卵探トブンワユシ

景の日常祭靈魚内構場化解



積移鯉虹湖周摩
景の時當査調地實



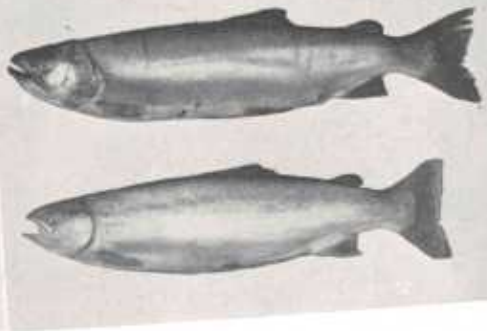
景の近附池源水北内構場化解



ムシツイフーロクの積移湖周摩



(積移湖周摩内想定案積)



鯉虹獲捕湖周摩



家遠の室務事及室化野内構場化解

祝

辭

祝 辭

北海道廳長官 戸塚 九 一 郎

北海道鮭鱒孵化場虹別支場ハ本年ヲ以テ創立五十週年ヲ迎フルニ當リ本誌ハ記念號ヲ發刊シ祝意ヲ表スルト共ニ往時ヲ偲ビ世人ノ追憶ヲ新ナラシムルハ意義有ル企トシテ寔ニ同感デアアル

虹別支場ノ創立ハ明治二十三年ニシテ我國ニ於ケル近代式ノ孵化場トシテハ千歲孵化場ニ次デ設立セラレタモノデアリ、其ノ歴史ノ古イ點ニ於テハ恐ラク世界有數ノモノデアラウト思フ

明治二十三年ト云ヘバ本道ノ開拓事情未ダ混沌トシテ諸業緒ニ着カヌモノ多ク、山野河海ノ富源ハ秩序ナク產出サレ所謂掠奪産業ノ時代デアツタ、當時ニ於テ鮭鱒人工孵化放流ノ効果、回飯性等ニ付テハ一部ノ關係有識者以外之ヲ信ズルモノ尠ク然モ其ノ必要程度ハ左程痛切ナラザリシ時代ニ於テ早クモ之ガ設立ニ着目シ勇敢ニ所信ヲ斷行セル當事者ノ慧眼ト果斷トニ對シテハ敬服ノ念禁ジ得ナイモノガアル、尙從業員諸氏ニ對シテモ亦萬腔ノ感謝ヲ表スルモノデアアル、虹別孵化場ハ今日ト雖モ鐵路ヨリ數里僻遠ニシテ交通不便ノ地デアアルガ創業當初ハ勿論近年ニ至ルマデ荆棘途ヲ塞ギ馬背、舟楫ニ依ルヲ唯一ノ交通機關トシテ居タ、從業員ノ名利ヲ追ハズ黙々トシテ山間ノ孤獨ニ堪ヘ克ク事業ノ遂行ニ奮勵セラレタル功績ハ特筆ニ價スルモノガアル

今日本道ノ諸産業ハ大ニ興リ各般ノ制度殆ンド間然スルトコロナキマデニ發達シタガ就中鮭鱒ノ孵化事業ハ其ノ最タルモノデ、道内年々ノ漁獲數量ヲ増加セシメタルノミナラズ新ニ北方漁場開拓ノ基トモナリ國內ノ食糧供出國外輸出ニ貢獻スルトコロ大ナルモノガアルハ蓋シ故ナキデハナイ

茲ニ記念號發刊ニ當リ先人ノ功績ニ敬意ヲ表スルト共ニ向後ノ堅實ナル發達ヲ期待シ以テ祝辭トスル

西別孵化場から虹別孵化場へ

北海道廳水産課長 半 田 芳 男

本道ノ鮭鱒孵化場ノ濫觴ハ明治十年開拓使ガ札幌偕樂園ニ於テ試驗的に實施したのであつて、之に引續いて七飯試驗所ガやり、更に民營として茂邊地川に孵化場ガ設けられた。然し組織的に此事業ノ計畫を樹立して本格的に事業を施行し始めたのは明治二十一年千歲川に官營の大孵化場ガ設置せられてからの事である。

千歲孵化場ノ創始ハ勿論技術ノ普及、事業經營ノ指導、種卵配布等ノ役目を果さんが爲であつて、その効果は顯著であるが、之を契機として北海道ノ鮭鱒蕃殖方針ハ人工孵化事業重視に變つた事は注目に價すると思ふ。松前藩政から幕府直轄時代、開拓使時代から初期ノ北海道廳時代を通じ一貫して天然蕃殖重視政策を採つて來たのが此處で急轉回したと觀らるゝのである。而して以來人工孵化萬能ノ黄金時代を築くに至つたのである。

果然千歲孵化場創立以來三年目即明治二十三年には西別川に一大孵化場ガ根室水産組合に依つて、又擇捉の當路には栖原角兵衛氏に依つて設置せられたのである。爾來各地に民營孵化場ガ設けられ大正末年には五十餘箇所の多數に上つたのである。

西別孵化場は爾來數十年の間千歲孵化場と並び稱せられ、本道ノ二大孵化場として君臨するに至つたのであるが其の名稱は昭和七年に西別から虹別へと改稱せられた。

西別から虹別へは單なる名稱の變化ではあるが、之ガ實施さるゝに就ては彼の不毛の地として永く顧られな

つた根釧原野も道廳の殖民政策の強化獎勵に依つて急激に開拓が進み、其の交通の如き厚床より中標津を経て標茶に至る迄の鐵道の開通を見るに至つたが、偶々別海村に西別なる停車場が置かれたために十數里を距つる然も全く別の支廳管内に在る西別孵化場と混同され頗る不便利となつたので虹別村に在る關係から虹別孵化場と改稱されたのである。

斯様に名稱を改めるに至つたことを考へて見ると此地方の開拓殖民が如何に急速進展したかと云ふ事を窺ひ得る次第である。西別孵化場創章の時代に勤務せる故藤井顯氏（後の千歳孵化場長にして永年勤続し本道孵化事業界の恩人）や其の當時道廳の關係吏員として事業期には監督の爲に出張して居た郡山甚四郎氏（現在東京に在住）等の話をよく聞かされたものであるが當時の西別は全くの僻地で佳人としてはアイヌ土人よりなく場員は事業期には根室より來りて半歳の間雪に埋れ世間と離れて奮闘したものであつた。それが現在では汽車、自動車の交通開け酪農村として發達を遂げた事と比較して正に隔世の感があることと思はる。

虹別孵化場を語るときは故小池仁郎氏を忘るゝ事は出来ない。小池氏は根室鮭鱒養殖組長として根室地方の鮭鱒漁業資源維持の爲に努力盡瘁せられたことは改めて書く迄もない周知の事蹟であるが、同氏は虹別孵化場には特別關心を拂はれ政界に驅馳する繁忙の中の時間を都合しては不便な虹別孵化場を訪れて何彼と世話をされた事も當時の關係者は感激して已まない事であつた。

虹別孵化場は創立滿五十年を迎へる程に古い歴史を有してをる位であるから此間いろいろの出來事があつたが自分が覺えてからでも可なり多事であつた。其の中で最も顯著なるものは、鮭鱒卵の細菌に依る被害發生であつた。同場としては嘗て經驗しない卵膜を犯す細菌の發生が勃發し當時の水産技術者學者を總動員して真相の研究や防除法に鋭意努めた事が思ひ出される。今日に至つても此問題は根本的に解決はして居らないが、消毒法が前

田中場長の研究で知られたので今のところ小康を保つて居るのであるが今後の研究を要するものである。

自分が始めて虹別孵化場を訪れたのは大正五年の八月であつた。網走から弟子屈に出て乗馬にて文餘の萩原を踏み分けて孵化場に至り内海場長に歡待された事は今に記憶に新たなるところである。此處を辭して歸途は標茶に出で釧路川を船で下つて釧路に出た位當時は交通不便であつた。それが現在では札幌から十四五時間にて然も靴に泥を着けなくとも孵化場へ行ける様になつた時勢の流れは今更に感慨深いものがあらう。

一昨年千歳孵化場の創立五十周年を迎へ本年は虹別孵化場の同じく五十周年を迎へることは斯界の爲に慶祝に堪へないのみならず、本道の水産施設にして斯様にお目出度い喜びを連續迎へることは仲々見當らない事は關係者の恐らく内心誇とするところだらうと思ふ。今後益々事業の發展を祈ると共に次に來るべき創立百周年には世界に普く響く様な盛大なる記念式を舉行さる事を希ふものである。

虹別支場創立五十週年を迎へて

北海道鮭鱒孵化場長 野 田 信 俊

紀元二千六百年を迎ふるに當り當場所屬虹別支場の創設五十週年を同時に迎へた事は洵に意義深き事で慶祝に堪へぬ次第である。

輓近本道鮭鱒漁業の興隆は頗る顯著なるものがあるが該漁業の進展と鮭鱒人工孵化事業との關係は最も密接不

可分なる關係にある事は明白なる事實で、最近識者間に於ても等しく本事業の忽諸に附すべからざる事を力説唱道せられるに至つたが、未だ全幅的なる普及とは言ひ難いが斯業に對する認識が一段と普遍的になり來つた事は孵化事業關係者にとり洵に喜ばしき現象である。

是に依り遠く五十年前即ち明治二十三年虹別支場の誕生當時を觀すれば當時は本道開拓の當初でもあり、一部水産人士を除いては全く一般人士には人工孵化事業が魚族資源維持に對する効果に多大の疑惑を抱持して居つた様で、特に甚だしきは河川に浜上せる親魚を採捕する事を以て孵化事業と目したり、又親魚捕獲場を以て孵化場なりと曲解せる徒輩も尠からざるやに聞く、之は聊か極端なる例ではあるが兎も角當時は今日と比すれば人工孵化事業に對しては誠に無理解なる時代に在つただけに斯業の衝に當られた先輩各位が其の蒙を啓き斯業獎勵の爲に如何に苦心せられたかは想像に難くない。

斯くの如き時代に在りて根釧原野の然も人跡未踏の地を跋涉踏査し幾多の艱難を克服し、漸く虹別原野に一大幽境を發見し、東北海道に於ける孵化事業の礎石を築かれた先人の卓見に對しては唯々感歎の外無く、あらゆる讃辭をも惜まぬものである。

又創設以來幾星霜虹別孵化場歴代の諸先輩並に場員各位が孜孜として諸施設の改善に孵化成績の向上に一意盡瘁せられ、同地方の鮭鱒孵化事業の啓發に如何に寄與せられたかは今更茲に贅言を要せざる處であつて、此の偉大なる業績に對しては何人と雖も満腔の敬意を表すると共に本道鮭鱒孵化事業史上に燦たる一頁を飾るものと確信する次第である。

今や邦家は國を擧げて生産資源の確保に邁進せねばならぬ秋であり、又水産北海道に課せられたる北洋漁業の開發と相俟つて今後益々鮭鱒の資源は國家的見地からしても經濟的に其の價値は益々重要性を帶び一段と生産擴充の飛躍を期せられて居り、然も此資源の恒久的確保に當りては人工孵化事業に俟つ事多く斯業の成果こそ吾が邦家の消長の一端にも關聯する一部門たる事を孵化事業關係人士は宜しく認識すると共に、先人の遺業を恥づかしめざる様一大決心と努力の下に萬全を期すべきであると痛感する次第である。

茲に虹別五十週年の歴史を顧み偶感の一端を披瀝するものである。

虹別孵化場五十週年を祝す

北海道水産會長 山 本 厚 三

本道鮭鱒孵化場の双璧として古くより人口に膾炙して居るものは千歲孵化場と虹別孵化場とであるが、前者は昭和十三年に創立五十週年を迎へたと聞いたが、後者は本年を以て同じく五十週年を迎へた事は業界の爲洵に慶賀に堪へない。

本道鮭鱒漁業と併行して五十年前より已に資源維持増殖の大方針を樹て、大孵化場を設けて着々孵化事業を實施された當局の慧眼に驚くと共に、特に根室水産組合が當時幾多の犠牲を拂つて彼の虹別原野の一角に大孵化場を設けられた事は敬服に値するものである。

今日汽車の便も相等開け、不便の度も自然短縮された事は文明の餘澤であるが、創草時代から精神的にも物質的にも恵まれます、而かもよく之に甘んじて一意孵化事業に専念せられ、此の間幾多民營の斯業を指導し倦むとこ

ろなかつた當時からの場員各位に對し滿腔の敬意を表するものである。

顧みるに本道鮭鱒漁業は本道漁業の大宗であるが、更に北洋の鮭鱒資源と一脈相通する本道に於て、之が産額を維持し之を増進せしむる事は時局下特に重大であつて、之は偏に人工孵化事業に俟たなければならぬ事であり而して技術者各位の努力に期待する所以である。

創立五十周年を迎へた虹別孵化場は今や其の指導に依りて創立された幾多の孵化場に君臨して居る事は洵に意を強ふするに足るものであるが、輝かしき紀元二千六百年を契機として益々發展せられんことを祈つて歇まぬ次第である。

虹別孵化場創立五十周年を祝し所感を陳ぶ

農林省水産局農林技師 徳久三 種

虹別孵化場が五十周年を迎へたことは何んといつてもお目出度いことである。これは日本の誇りであり、列國に對しても肩身の廣きを覺ゆる次第である。

特に私は内海兄の場長時代二度もこの孵化場に参り、然も一度はこの孵化場で武田教授等と御一緒にお正月を迎へたので思ひ出では深い。この五十年間に虹別孵化場が邦家に直接貢献したことは誠に多大なものであるが、それにもまして間接に本邦の孵化事業の興隆に寄與した功績は更に大なるものがある。既往半世紀の間には色々

の困難もあつたし、難關もあつたが、嚴たる虹別孵化場の存在が如何に心強く、日本の孵化人に頼母しく思はれたかは想像に餘りあるものがある。

所謂鮭とり業者たる一片の資本會社などは、資源の培養維持などテンデ頭でないものであるから、この大事な孵化事業に對して些かの理解もない。公開の席上ですら、これらの鮭とり會社の重役ともあらうものが孵化放流事業の効果に關して疑問符を附したような口演をして居るのを聞いたことがある。その非國民的態度に呆然としたことがある。なる程彼等にして見れば鮭がなくなれば轉業するまでであるからそれでよいのかも知れぬ。彼等の心境はもとより唾棄すべきで現下の時局に於ては特に許さるべきでないが、まだ心外に堪へぬは、腐儒とか、生半可通の我等の仲間の水産技術官である。何んでも横文字で書いてある文献は、佛徒のサンスクリット經典に對する態度で、一にも二にも難有く受け容れて、雜誌新聞の原稿料かせぎの材料か、自個賣名の具にする手合である。先年もこの手合が、米國の水産誌に掲げてあつた。鮭人工孵化無効論の記事を見付けて、得たり賢しとあやしい語學でこれを翻譯して御丁寧にもある日本の業界の雜誌に寄稿したものだ。それが爲めに一寸世間の物議を醸したことがある。これらは眼孔紙背に徹せざるクワケものなのである。元來アラスカや、コロンビアなどの鮭の人工孵化事業の經營といふものは、權詰會社に課せられたる義務的仕事なのである。この權詰會社なるもの曩きに謂つた、日本の鮭とり會社と同じで、金だけ儲ければよい、鮭が種ぎれとなれば、鑛山でも製材でもやるといふ連中であるから、成るべく鮭の人工孵化はやりたくない、やつても孵化事業を縮少したい連中であるから孵化事業に難癖をつけ、この義務の減免に預りたい不良の輩であるから、時々この孵化無効論を採りだしてはロシアエシ政府にイヤがらせをするのである。それをウノミにして日本の水産官吏が翻譯して社會に紹介するとは何んたる阿呆か、眞に濟度出來ぬ奴等とはこの手合である。前の鮭とり會社の重役の口演に拍手を送るよ

うなものだ。世間には盲目千人ともいふから、今後としてこんな水産技術官が出んとも限らんから、本協會の如きは嚴重に監視して居て貰ひたい。それにつけても故小池翁、故谷茂平翁の如きは誠に見上げた人であつた。

昨今遽かに科學々々といふ聲が聞ゆるが、何博士とかいふ連中が人にも解らぬ自分にも解らぬような高遠な論文？を印刷して賣名なり自個満足の具にしてワレコソ科學者で御座いといふ顔をして居るが、噴飯に堪へない。ソ、ナ、ものは科學でも何んでもない、十年、數十年致々として孵化場に立籠り、如何にして孵化能率を向上せしむべきかに、如何にして放流後の業績をより善からしむるかに、人生の大半否な全生活を犠牲にして努力する隠れたる人こそ眞の科學者であらねばならぬ。然も社會は愚にも付かぬ子供ダ、マシの論文博士に敬意を拂つてこの種の眞の科學者に對して冷かであつた。今日はこれではならぬ、この冷かな社會の待遇にも拘らず、この虹別孵化場を五十年まで育てあげた先輩各位に感泣して御禮を申上げるものである。

特に内海先輩の功績は本孵化場の續く限り否な太平洋に鮭の存在する限り、神によりて永久に祝福さるゝであらう。

虹別支場創立五十週年を祝す

函館高等水産學校長

佐

々

茂

雄

由來本道が我が國水産業界に於て首位に在り、就中鮭鱒漁業が其の産額に於て北洋と共に極めて重要な地歩

を占めつゝあることは最近の統計の明かに示すところである。而も鮭鱒は食品として風味佳良能く内外世人の嗜好に適し榮養亦卓越國民保健に資するところ多く、其の需要年と共に累加し、他面輸出品として多額の外貨獲得に貢献しつゝあることは衆知の事實であり、邦家産業上にも極めて重要な役割を果しつゝある。

而して之れが資源を涵養すると否とは直ちに業界の興亡浮沈に拘はるのみならず、延いて國民生活並に我が經濟界に及ぼす影響亦甚大で、是れが資源を永遠に維持すると共に其の増進を期するの必要なるは今更論を俟たないところである。本道が茲に着眼し而も開拓創業の昔に於て鮭鱒孵化事業を開設し、専ら其の増殖に意を注いだのは眞に偉とすべく爾來漸次隆盛を加へ着々其の成績を擧げつゝあることは、斯業のため慶賀に堪へざる次第である。

殊に虹別孵化場が創設茲に五十年、我が國鮭鱒孵化放流事業に多大の足跡を印し本道鮭鱒漁業に裨益せしところ極めて大なるは普く業界の認むるところで、其の功績たるや没すべからざるものがある。一面彼の山間僻地に於て酷寒と闘ひ不便を忍び、専心此の事業を擔當せられたる歴代場員の勞苦と努力に對しては深甚なる敬意と感謝を捧ぐるものである。今や幾多の尊き苦心と体験に依り鮭鱒孵化育成の上に各種の研究を積み、業界に捧げられし功績顯著なるものあり、今後之れを基礎とし更に其の成績の向上に邁進せられ、愈々隆盛に向はれ一層業界の爲資せられんことを衷心切望し、一言祝意を表する次第である。

虹別支場創立五十週年記念祝辭に代へて

根室鮭鱒養殖水産組合組長

稻

垣

龍

北海道鮭鱒孵化場虹別支場創立五十週年を迎へたるは吾人の感喜措く能はざる處であります。

鮭鱒魚族の産地として名聲天下に冠たる我根室地方は其の漁業の發展につれ半面には蕃殖保護の必要あるに鑑み往年根室縣廳時代重要河川たる西別川に密漁取締の官吏を派遣して親魚の遡上産卵の保護に當りたるも、廢縣と共に根室水産組合之を繼承して銳意取締に従事したるも西別川の延長十八里に亘り、民間事業として天然蕃殖保護の實績容易ならざるものあり、時偶々北海道廳に於ても鮭鱒漁業の資源維持の必要あるを認め、明治二十一年石狩川支流千歳川に鮭中央孵化場を設立せられたるを一轉機として各地に民營孵化場の設立氣運濃厚となり、當時根室水産組合に於ても其の趣旨に従ひ、人工孵化場設置の議を起し明治二十三年十一月道廳の補助及技術官の指導を受け西別川水源たる釧路國川上郡虹別村字シュワンプトに適地を求め、翌二十四年六月工事竣功と共に諸設備を完成した。之れぞ現在虹別支場の濫觴なりと聞きます。

爾來十有餘年間根室水産組合の經營たりしも明治四十年度には建物其他器具一式を道廳に無償寄附し、北海道水産試験場西別分場として地方費經營に移管せられ、一方根室水産組合は親魚の遡上を充分ならしむる爲、西別川河川内の鮭鱒曳網漁業權者を勸説して報償金を交付し、休業契約締結する等萬全の策を施す。次いで四十一年度には官吏住宅、採卵室及倉庫等を新設し大いに面目を改めたが、四十三年北海道拓殖經營案の實施せらるゝや惟ふに創立當時は僅かに數百萬粒を孵化放流する設備に過ぎなかつたが、事業の効果顯れて回歸親魚の増加が著しく今や鮭鱒各四千萬粒を採卵孵化する設備を有するも尙足らざるの盛況を見るに至りたるは、是偏に密漁取締河川内漁業の休止等凡て本組合との協調宜敷きを得たる結果にして、本事業は官民協力の典型として斯界に誇るに足るものと信ずる次第であります。

扱て視野を本道に轉せんが重要水産の位置を占むる鮭鱒漁業其の經營法の進展と共に内陸の開拓に伴ひ、過去を顧る時は漸減の傾向を示したりしも官民協力一致鮭鱒孵化事業に一路邁進の結果、再び挽回を爲すに至りたるは即ち孵化事業の効果の顯れとして識者の認むる處で欣快に堪へない。殊に鮭鱒製品の大半は海外輸出品として重要な役割を持ち、我國策的にも今後益々斯業の隆盛發展を期さなければならぬ。吾人は素より斯業に携はる人々の任務愈々重大性を加へ來つたものと云ふべきであります。時恰かも光輝ある紀元二千六百年に際會し、北海道鮭鱒孵化場虹別支場開場五十周年に當り衷心より祝意を表すると共に、今後幾多の困難に堪へ益々事業の進展を期し孵化報國の誠を盡されんことを切望して止まざる次第であります。

終りに臨み斯の如き孵化事業の盛況も從業員各位が僻陬の地に人知れぬ艱難と闘ひ然も物資に遠ざかり身を犠牲にしたる献身的努力の賜として吾人は是等の人々の熱誠に對し滿腔の敬意と感謝とを捧ぐるに吝がでない。

以上を連ねて祝辭に代へる次第であります。

鮭鱒孵化の回顧五十年

藤 田 經 信

サケ族の人工受精孵化法が明治九年初めて米國から我國に傳習され事業化され、第二次の孵化場虹別でさへ兎鳥勿々茲に五十年を迎へて祝典を擧げ得るに至つたのは寔に感慨無量である。

現今我國で人工受精法で孵化放流されるサケ族、ワカサギ等の稚魚は年々三十九億尾の巨額に上ぼつてゐる。これは全く世界の驚異で、曾ては斯道の指導者たりし米國も淡水魚に限つては後に瞠若たる觀がある。從來我國で常に食卓に供される水族の種族と數量の豊富なのは歐米に比儔するものはなく、寔に水産國の名に負ひかなかつた。それだのにさらにその増殖がかく人工で實現され、その形勢が將來もいよいよ伸暢するのは洵に慶賀に堪へないのである。

人工孵化法が關澤明清により輸入され、同年これが直ちに茨城縣で實施され、翌年は米國からニジマス卵を輸入しこれを猪苗代湖で孵化放流したが、いづれも所期の効果を擧げることが出来なかつた。なほ内地の他方面でも屢次同様の努力が拂はれたが、その成績は僅に試験といふ範圍に止まり、孵化法の實益に至つてはなほ前途遼遠の觀があつた。しかるに北海道廳が明治二十一年に千歲村に鮭鱒孵化場を創設して石狩川のサケ族の増殖を期し、また二十四年虹別に同様の企劃をして西別川に於ける同魚の繁榮を圖りたるに孵化法を事業化した先驅でその眞價を昂揚したる功績は筆紙に盡すべきではない。ことに虹別孵化場の所在は北海道東海岸に散在しサケ族の瀾瀾する諸川の王座を占める。従つて同場に於ける孵化法の實績はその影響の及ぼすところ寔に重大である。幸に始終一貫の艱勉でその成果は甚だ顯著となり、東海岸の孵化業も逐年完成の域に進んできた。千歲孵化場は我國創設の模範的施設であるは勿論だが、虹別孵化場はこれに關して正に畫龍點睛の觀があつて、北海道廳の計畫を意義あらしめたについて、その動功は特筆すべきものがある。

サケ族の人工孵化法は奥國のS・L・ヤコビーが一七六三年（寶曆十三年）に普國ハンノバー雜誌に「有益なる魚の飼育法」と題して、同人が一七五七年（寶曆七年）に獨創したこの方法を掲載したので、初めて世に著聞した。それで現在ではヤコビーを斯法と開祖とする。しかしこれは精緻の智能を要することもなく、またこれに關する技術も至難ではない。外國でも已に一七五〇年に、普國ゴールドスタイン伯も人工孵化に成功した事蹟がある。

我國でもまだ外國との交通が殆んど絶無の天保十二年（一八四一）年に刊行された北越雪譜に、著者鈴木牧之は「寒氣の候捕獲せしサケの卵と精蟲とを交へ、サケの棲む川の砂石に包み納め、サケの産せざる國にて海に通ずる山川の清流を擇びて、これを放流し、サケの發生するも、なほ三年間捕獲を禁ずれば大に蕃殖し國益とならん」と述べた。これは實に孵化に關する獨自の卓見であつた。たゞ時勢がまだこれを實際化するほど緊迫しなかつたため全く同様の方法が米國から傳習するまで空しく閑却されたのである。ヤコビーについても同様の感がある。同人の報文は甚だ有益ではあつたが、國內の業界には著しい感激を與へなかつた。却つてその反響は國外に著しく、ことに甚だしく佛國を刺戟し、その極同國は一八五七年（安政四年）にフニグに國立孵化場を設立し、マス孵化の事業化を企圖した。しかし不幸にも同地の水質は不良で斯業に適當でなく、かつ普佛戰爭の結果同地方は獨國の領有に歸したため、孵化場は豫定の成績を歛め得ないで廢止された。それゆへフニグ孵化場は孵化業

の開祖と見做されるがその模範ではない。この榮譽は當然米國の荷ふところとなつた。同國最初の孵化場は一八五三年（嘉永六年）にオハヨ州クリーブランドに建設されたもので、専らカハマスカハマスを孵化した。これが成功してからこれに倣つた孵化場が各州に續々新設され他のマス類も孵化された。歐洲であまり成功しなかつた人工孵化が米國で好績を挙げ得たのはサケ族の種類、ことに池中飼育に適するものが多く、従つてそれらの卵數の夥多なるによる。池中飼育に適する種類は論外だが、孵化した稚魚で河川に放流するものでは、その四年後の回歸數は、千分の三以下である。これがために孵化業の顯著な美蹟を挙げ得るには夥多の卵を必要とする。我國に孵化法が傳習されてから約十三年、その時日は決して短くなく、またその間官民が斯業に盡瘁したことも少くなかつた。それにも拘はらずなほ瞠目に値する實績を挙げ得なかつたのは内地の各河川に於ける親魚は少く、その卵數もまた少なかつたためである。かく内地では殆んど絶望と思へた人工孵化が北海道の孵化場のために事業として牢固たる基礎を築き、他を指導し得るに至つたのは、業界のため洵に慶祝に堪へない次第である。

筆者は明治二十年頃札幌に居住した。當時秋末の石狩街道はサケを積んだ駄馬が陸續として札幌へ殺倒した。その年産は常に豊富であつた。かゝる際、その補給を圖るに腐心するのは一見寔に無用の閑事に過ぎないが、實は凡慮の及ばざる明鑑であつた。北海道廳が周到な配慮で季節にはまだ市場に氾濫するサケの増殖に熱中したのは今さらながら深甚の敬意を表せざるを得ない。

近來米國で孵化場を廢止したといふことを見聞して、直ちにこれを我國に擬せんとするものもあるやうだ。これは寔に一知半解ともいふべきである。米國では河川湖沼にもまだサケ族の自然産床が少くなく、従つて自然産卵の數も相當多量である。總て他の事情が均等であれば、サケ族の自然産兒は人工産兒よりその体質は強健である。そこで自然産床を保護して孵化業を専らこれに依存し、孵化場を廢止するのも良法である。幸か不幸か輓近

我國では鑛工、等の産業は年々發展し河湖は利用されて、水質は惡變し水底に異變を生ずるものが續出する。これがため元來やゝ少いサケ族の自然産床は漸次減少した。従つてこの主要なる食用魚の圓滑な供給を圖るためには是非ともこれを人工孵化に俟たねばならないことがいよゝ痛感された。同じく減耗した傾向ある魚でも、その漁撈區域の擴張が可能なれば、この缺陷を補ひ得れど、サケ族のやうに産卵のためには必ず河川を必要とするものでもしその人工孵化を一旦停止すれば、この影響は急轉直下忽ちこれが減耗を來たし、終に救済することが不能となる慘狀を呈することは必然である。

人工孵化の確實であり有益であることが北海道の孵化場の業蹟で深く認識されてから、外國産のニジマス及びカハマスの輸入となり、個人經營のマス池中養魚業の新生面が開けた。元來サケ族は北方産であるからこの孵化も主に同地方に限局されたが、外國産マスは南方にもよく適順普及して、今日では國産種同様に飼育されるに至つた。

船載したマスの普及と異常な成功に覺醒されて誕生した人工孵化はワカサギ（チカ）及びアユである。ワカサギの孵化は明治四十年頃露浦を發祥地として勃興した我國獨特の方法である。その飛躍的成功は諏訪湖への移殖で明晰に立證された。年々この魚の稚兒放流數の巨多なることは孵化魚中隨一であり、またこれを実施する地方は廣く北部より南部に及び、殆んど他に敵するものはない。なほアユの人工孵化は明治三十一年に初めて實驗された、その後さらに企業されなかつたが近來これを計畫するものが續出し、この東洋の名産もその産額が増加して夏期の食卓を賑はすことになつた。

總てかゝる情勢を達觀すると我國サケ族の人工孵化の隆昌は自ら北海道廳孵化場の多年に亘る不撓不屈の努力による功勞に歸せざるを得ない。もし假りに同孵化場が創設されなかつたら、人工孵化は、サケ族は勿論ワカサ

平及びアユも他に師表とするものがないから、たとへ實現してもその時期は非常に後れて今日のやうに世界に冠たる絶讃を博することが出来ないと思ふ。

今や世界の情勢は日々混亂緊迫して容易にその洞察を許さない。しかしいづれの國でもその最も熱烈に希求するものは生産擴充、ことに食糧に關して然りである。孵化業も當然これに關與するから熱誠業務に應酬するの精神を發揮してその刷新と向上を圖らねばならない。それには從來とかく流れやすい苟安の陋弊を矯め、大に技術の刷新に励め斯業本來の使命の完遂に邁進すべきである。

虹別孵化場は創立茲に五十年、その間千歳孵化場の好同伴として始終溢はらざる努力で、北海道東海岸の孵化業を指導し、今日の隆昌を招來したのは敬服に堪へない。しかし今日はたゞ既往の事績を謳歌し讚美するばかりでは五十年記念の意義を盡したとはいへない。事業の前途はなほ遼遠であり、坦夷ではない。この際なほ一層奮勵して斯業目的の達成に盡瘁せんことを冀望する次第である。

虹別支場創立五十週年を迎へて

虹別支場長 石 井 久 治

當虹別支場は明治二十三年の創立になり本年を以て滿五十週年を迎へたのである。

阿寒國立公園西別岳の麓世界屈指の透明度を有する幽邃摩周湖の南方約四里の地に介在し、故藤村信吉氏の選定せられしものと聽く、五十年前斯かる僻地に斯る好適地を選定せられし先人の明に驚嘆する次第である。十六萬坪の構内各所より湧出する清水は實に毎分數百石清冽西別川の源泉をなし、山紫水明の一大水郷である。創立當時に於ては設計一千萬粒にして根室外二郡水産組合の經營なりしが、明治四十年地方費支辨にて北海道水産試験場に屬し、西別分場、次いで西別支場と稱し明治四十三年國費支辨となり、北海道廳西別鮭鱒孵化場北海道廳虹別鮭鱒孵化場を経て昭和九年北海道鮭鱒孵化場虹別支場と改稱、根室、釧路國支廳管内に九事業場を包含し今日に到つて居る。

其の間鮭鱒孵化事業に關する調査、指導、改良等千歳事業場と共に幾多の貢獻をなし又池中養殖事業に對しても大正十五年以來昭和四年に亘り摩周湖へ虹鱒を放流せるが、其の蕃殖盛にして該魚より採卵の卵子は普く全道各地に分與増殖せられ養鱒事業今日の隆盛に裨益する處大なるものあつたのである。清流西別川は延長約三十里根室國別海村に於て海に注ぐが本川産の鮭は古來「西別鮭」と稱され其の美味を海内に轟かしてゐるが、近年浜上減退の徴を示してゐるのは否めない。之は沖合流網漁業漁獲方法の發展に原因をなすものと思はれるが、又移民の入地により人工増加の結果河川の汚濁さるゝ事密漁の増大に依るものと思はるゝが誠に遺憾の極である。

古來未曾有の聖戰貫徹の途上食料難を叫ばるゝ今日、資源維持確保の爲に又過去五十年に亘る先輩諸氏の築き上げられたる偉業を引き繼ぐ吾々の責務重大なる事を痛感すると共に、今後益々事業擴張の爲に努力しなければならぬと思ふ次第である

虹別孵化場創立五十週年に際して

菊 地 覺 助

一昨年五十周年記念を迎へた千歳孵化場が、官廳に於ける産業施設として斯界に君臨し其の王座を占めて居るのに對して、本年五十周年を迎ふる虹別孵化場が、當時民團の雄として氣を吐いた事は正に鮭鱒孵化事業界の偉觀といふべきである。

本道孵化事業を創始した當時の人々の卓見は言を俟たないが、明治二十四年西別孵化場を創立し、爾來十七年間地方費に移管される迄、幾多の困難と戦つて經營して來た根室水産組合の努力に對しては深甚の敬意を表し度い。尙地方費移管後明治四十三年國費移管となり今日に至つて居るが、孵化場親魚の捕獲は根室水産組合の昔から根室鮭鱒養殖水産組合の今日迄依然として影の形に添ふて居る。官廳移管後に於ける同場の發展はまことに隆々たるもので、千歳孵化場と並び稱されたが、それにしても當時茫々たる虹別原野は僅かばかりの土人の部落を除き最も近い村でも標茶の九里、日常の物資はすべて此處で調へる譯だが、山中唯一の樂みとする郵便物が標茶の局から配達されるのに夏分でも幾日置きかであり、冬分はいはゞ配達夫の御都合次第とでもいふべきもので、電信さへ三日がかりであつたといふその頃の勤務者の話を聞く毎に、洵に同情を禁じ得ないものがある。大體に於て本道の孵化場は得て人里離れた處に在る關係もあるが、拓地植民の方面に貢獻して居る事は其道の人ならでは殆んど氣もつかないことであるが、孵化場が在るお蔭で其處に泊めて貰つて各種の調査をするの便宜を得たり

全く縁もゆかりもない人々でも行き暮れて一夜の宿を乞ふといつた事は如何に多かつたらうか。其他相等知名の士で足一度虹別原野に入れた人々は殆んど例外なしに孵化場の厄介になつて居る筈である。今日虹別原野にも汽車が通じ殆んど面目一新便利になつた事は欣ぶべきであるが、その間に在りて明治四十三年から昭和六年迄實に二十二年もの永い間、しかもその大部分を自炊生活で過した内海重左衛門氏こそ此の孵化場を語るに當つて忘るゝ事の出來ぬ孵化場發達史中に於ける大なる存在である。官廳に移管されてからの主任は山下平造氏であつたが間もなく退職し千歳孵化場から内海氏が赴任されたが、當時茫々たる雪野原をカンジキを踏みしめて非常に難儀して赴任された時の氏の思ひ出話を聞かされて見れば眞に笑ひ事でなかつた。爾來氏は心血を傾倒して只管孵化場の改築、養魚池の修理擴張整頓等をされ、又氏の持前の風流氣から池畔に菖蒲を植えたり、構内の樹木を整理したり、舊態一變全く樂園化するに至り、大孵化場としての貫祿を充分に示された事は偉とすべきである。

誰れしも同様と思ふが、多少でも体験したものは一度孵化場の構内に足を入れ、ば主宰者の人と成りが想像され、孵化室に入つて見ればその管理整頓方によつて略々その成績さへも直感し得るものであるが、單に經費の少きが故に手が届かないといふが如きは假令經費が潤澤であつても恐らく之を成し得ぬであらう。筆は些か脱線したが兎に角氏の努力がその孵化成績の上に着々實現された事は、親魚が非常に遅く迄浜上を見るやうになつた事は何よりの證據であり、その放流と洄歸の關係はよく一致して居つた事で、蓋しその洄歸浜上の壯觀は全道に比なき程の時代もあつた。然るに好事の慶とでもいふか、昭和三年頃から孵化用水に或種の細菌の發生で卵子は殆んど全滅といふべき現象が出現し、之が爲め權威者を總動員して研究に全力を擧げられ、此の結果新たに鑿井して孵化用水を求めたり、消毒によりて防止しやうとしたり、大恐慌時代が來た。斯くするうち昭和六年かに氏は退職された。爾來卵子は必ず消毒の一本鎗で進んだやうだが、大體から見た結果は必ずしも豫想の通り

に行かなかつたのか洞鯉魚の浜上は近年頗に減少した事は事實であつて、之が原因の探究は孵化事業者に取っては大に眞剣にやらなければならぬ問題で、虹別孵化場のみに起れる現象として輕忽に附すべきでない。或は傳ふ虹別孵化場は此の細菌の發生を濟度し難きを以て斷然他に移轉するを可とすとの意見も耳にして居るが、今や創立五十周年の輝かしき歴史を有する孵化場が、單に卵子の收容時から仔魚の發生時迄僅かに四十日足らずの間に起れる現象なるに、之が防止の方法を究めずしてあの完備せる孵化場の設備を一朝にして他に移轉するが如き輕々を敢てして後人の誹りを招くが如き事を避け、寧ろ五十周年記念を契機として孵化事業者は益々之等の現象につき研鑽以てその眞理を究め、孵化事業界に貢献する處あらば虹別孵化場五十周年記念も茲に一大意義を齎すものといふを得るであらう。吾人は敢て率直に所感を述べて祝辭に代へ度いと思ふ。聞くところによれば昭和十四年度は最近稀れに見る採卵數であり、しかもその成績も亦非常に良好だつたとの事であるが、場員各位が努力の賜と爰に重ねて慶びを申上ぐる次第である。

沿革史

虹別孵化場沿革史

往時本道に於ける鮭鱒族の饒多なりしは、口碑史實に明かなる處なるが、就中東北海道に在りては根室國西別川を中心とせる鮭は食味の優秀を以て夙に中央市場にその名聲を擯にすること茲に年あり。然れども漁業の發達と拓殖の進歩とは該種族の減少を來すこと他と其轍を同じくし、將來大に憂慮すべき情勢に在りたるを以て、北海道廳は其の所轄廳たる根室縣廳をして毎年之が播籃地たる西別川沿岸に吏員を派し、天然蕃殖保護の爲密漁取締に従事せしめしむ、廢縣と共に此の事止み、根室漁業組合は之を繼承し銳意取締につとめられたりと雖も、西別川の流域略々三十里と稱せられ、密漁の防止又容易ならざるものあるを得し蕃殖上種々苦心考究中、偶々北海道廳に於て石狩川支流千歲川上流に鮭鱒人工孵化場を設置し、之を模範として人爲交精の方法に依り其の蕃殖を保護する事を全道に勸誘せられし結果、根室漁業組合も亦之に共鳴し人工孵化場創設の議起り、明治二十三年十一月、北海道廳に向つて位置撰定の爲技手の派遣を請ひ、同月二日組合頭取藤野四郎兵衛代理藤谷彌吉、副頭取柳田藤吉代理柳田豊の兩人を派し、西別川の水源なる釧路國川上郡虹別村字シュングシベツに於て其の位置を撰定し、同月十三日組合役員會を開き決議の上同二十日北海道廳に向つて孵化場設置の出願をなし、同二十九日認可と共に創立費補助として金子若干と孵化器とを貸與せられ、同月二十三日工を起したるが、工事未だ終らざるに十二月二十二日より親魚を捕獲採卵し、僅かに當期の事業を經營するを得たり。翌二十四年六月二十四日總べての工事竣成し、孵化器亦完備したるが此の兩年に亘り投じたる創業費は三千三百餘圓に達したり。今その設備の内容を擧ぐれば、孵化室一棟四十八坪、事務室兼職員住宅一棟二十六坪、孵化槽三百四本、孵化枠三百四十五個、孵化盆三千七百九十五枚、親種十一間、執業種十間半、外種二十六間、沈澱槽九箇並に

捕獲採卵並に孵化に要する器具一切なり。而して此の地は根室を距る三十里、釧路國標茶を距る七里、根室國標津を距る十五里にして孵化場建築乃至器具の調製運搬等の不便甚だしく、加之他に比類なき新事業なれば最初の豫算額を超過すること多く、爲めに組合は關係漁場の有志に訴へ寄附金によりて之を辨ずるの狀態なりき。而かも事業は益々高上し、養魚池を修し採卵所屬舎、倉庫等を建築し年々若干の費用を投じて漸次擴張を計り、明治二十九年に至り孵化室及諸器具其他大修繕をなさんと欲し既に計畫をなしたりしに不得止事故に依り之を中止し、更に三十年前記の計畫を繼續し、諸修繕及孵化室を増築せり。超えて三十四年四月十九日暴風の爲孵化室倒壊し、當時孵化稚魚は概して養魚池に放棄し孵化室内に残存せるもの僅少なりし爲幸ひに死傷の大害を免がれたりと雖も、孵化室及孵化槽等の損害尠からざりき。

同年度の事業着手を數月前にして如上の被害に遭遇し、不得止その事業に差支へざる程度の一時應急修理をなし辛じて事業を繼續せり。孵化室は二十三年創設以來幾度か修繕を加へ來りたるも最早や改築の必要に迫られ、此の機會に孵化室を擴張し事業の進展を圖るは最も好機なりと思惟せるも、連年漁業不振の爲め當業者は非常に惻愍の境遇にあるを以て、單に舊形に依り改築を爲すの外其の費用支出の途なき實狀なるも、種々考究の末北海道廳に其の事情を具申し明治三十四年九月二十三日之が補助を出願せるに、幸ひ同年十月十二日擴張費として補助金下渡の許可を得たるを以て、愈々在來の孵化室五十八坪を更に七十五坪に擴張改築をなすに決し、同年は改築用材の伐採等準備をなし、翌三十五年五月十二日起工し、同年六月三十日を以て竣工したり。その他年々養魚池修繕或は新設、孵化器の充實等に斯業の發展に努力したりと雖、創立以來卵子を六百萬粒採卵孵化せしは明治二十五年以後に屬するを以て、隨つて業者をして其の効果觀面なりと感得せしむる事は容易の業にあらざりしが、明治四十年地方費に移管せられ、同四十三年更に國費に移管せらるゝと共に名稱を北海道鮭鱒孵化場西別支場と稱し、事業は益々進展し、大正八年七月二日改築して更に

百十坪の大孵化場となし、同十四年には廳舎を白臺の近代式建築となし、次いで養魚池を鐵筋コンクリートに改築する等僻遠の水郷爲めに一變し、千歳孵化場に亞ぐ大孵化場として内外人の賞讃するところとなれり。昭和七年北海道鮭鱒孵化場虹別支場と改稱今日に至れり。

孵化場は西別岳の麓國立公園摩周湖に近接し、構内二十二萬五千九十四坪の大敷地を擁し、構内各所より滾々として湧水し其の水量の豊富なる一分間實に數百石餘に達し他に其の比を見ず。構内には多數の養魚試驗池あり、又オソツスの瀑布あつて後日孵化場所要の電源たるべく豫想せらる。此の外附屬採卵場は孵化場を距る約二里半野付郡別海村大字平糸村シユワンプトに在り、敷地十三萬九千二百十五坪を所有す。今現在虹別支場設備の概略を擧ぐれば左の如し。

廳	倉	二十九坪二合五勺	大正十四年三月九日建築亞鉛引鐵板葺
物	品	二階建二十五坪	大正十四年三月九日建築亞鉛引鐵板葺
板	倉	三十坪	大正十四年三月九日建築亞鉛引鐵板葺
孵	化	室 百十坪	大正八年七月二日建築亞鉛引鐵板葺
厩	舍	二十坪	大正十四年三月九日建築亞鉛引鐵板葺
浴	場	五坪	昭和三年七月増改築亞鉛引鐵板葺
製	作	室 十一坪二合五勺	大正三年十二月十六日建築亞鉛引鐵板葺
支	場	長官舍 二十二坪	昭和十四年四月建築亞鉛引鐵板葺
第一、第二號官舍		二十九坪	明治四十一年十一月十五日建築亞鉛引鐵板葺
物	置	六坪	大正五年十二月二十日建築亞鉛引鐵板葺
第三號官舍		十七坪	昭和五年二月七日建築亞鉛引鐵板葺

第四、第五、第六號官舍		四十坪	大正十三年十一月一日建築亞鉛引鐵板葺
鮭	養	魚池 千六坪	
浮	游	池 百二坪	
試	驗	池 百二坪七合五勺	
鱒	池	百九十三坪	
採	卵	場 二十坪	明治四十二年八月二十日建築亞鉛引鐵板葺
物	品	倉 庫 八坪	大正六年十月一日移築亞鉛引鐵板葺

摩周湖への移殖事業

虹別孵化事業の一部として大正十四年始めて摩周湖に虹鱒の移殖を試みたるが、同地は當時頗る不便にして且つ孵化槽を据付くる場所さへなく、初年目は虹鱒卵約一萬三千粒を携へ苦心の結果二尺餘の堅氷を破碎して湖水に撒布したるも、其の結果不明なりしが續いて昭和二、三年に亘り繼續約三萬六千尾を放流せるに今日にてはその効果大に現はれ優秀なる種卵供給地として喧傳せらるゝに至れり。又昭和四年米國種ステールヘット一萬三千餘尾を放流せしが其結果現はれ今日にては親魚捕獲採卵するに至れり。

連年鮭人工孵化事業成績

年度	捕獲數(尾)		使用親魚數(尾)		採卵數	孵出數	孵出率(%) (均採卵數)	分與數	摘要
	雌	雄	雌	雄					
明治二三	三五六	一五六	一六八	三三六	三九,五〇〇	三,五三二	九〇・四	二,四六五	
二四	二,七三六	一,〇六二	一,〇三五	二,〇八七	二,六九一,九〇〇	二,四四七,八八〇	九〇・九	二,五三三	
二五	六,七七一	二,二〇五	二,四七八	四,六八三	六,三三五,六〇〇	五,七七七,七一九	九二・六	二,八三三	
二六	六,四〇五	二,三六一	二,三四〇	四,六〇一	六,五二二,〇〇〇	六,一一八,四三七	九四・〇	二,五九一	
二七	七,一七五	二,九四三	三,四七一	六,八四二	七,一九一,一〇〇	六,五五〇,一〇三	八九・七	二,四七七	
二八	四,二一九	一,六〇九	一,九四四	三,五五三	三,五五〇,四〇〇	三,〇九八,九一九	八七・三	二,二〇七	
二九	九,〇六六	三,四三六	三,四三六	五,〇二七	八,〇九二,一〇〇	七,四四四,三二〇	九二・〇	二,三五七	
三〇	九,八三五	四,〇二二	四,〇二二	八,二二二	七,七七八,八〇〇	六,八六七,五二五	八九・二	一,九二七	
三一	九,六三二	四,五〇七	四,六〇一	九,一一七	九,三九八,四〇〇	八,三三三,一五八	八八・九	二,〇八五	
三二	六,四九三	三,〇三三	三,二二四	六,三四七	六,〇九二,六〇〇	四,九九五,〇〇八	八二・〇	二,〇〇九	
三三	七,三三三	二,五七五	三,一九九	五,七七四	五,〇七七,一〇〇	四,〇九五,三三三	八〇・七	二,三六〇	
三四	一〇,三三六	三,二五九	三,四二四	八,六七三	七,三九二,一〇〇	六,六五九,五五五	八九・八	二,二六八	
三五	五,四三三	二,三三〇	二,八三〇	五,一七〇	五,七八八,〇〇〇	五,四五三,六四一	九四・六	二,四六五	
三六	七,五五八	三,四二〇	三,四二〇	六,五四二	六,七八四,〇〇〇	六,三〇二,四三二	九二・九	二,一六〇	
三七	七,〇八二	三,二二八	三,三四一	六,五五九	七,三三〇,〇〇〇	六,七九一,一八三	九二・八	二,二七五	

年度	捕獲數(尾)		使用親魚數(尾)		採卵數	孵出數	孵出率(%) (均採卵數)	分與數	摘要
	雌	雄	雌	雄					
明治三八	二,九六六	一,三三七	三,三九	四,七三六	二,八六六,八〇〇	二,七二四,九四三	九四・七	二,五三三	
三九	二,五二六	四,〇五三	五,〇五三	九,七二六	一〇,一〇四,〇〇〇	八,七九〇,八六〇	八七・二	二,一四三	
四〇	九,九八〇	四,一五三	三,八八九	八,〇四一	七,八三四,〇〇〇	五,九七〇,二六六	七六・三	一,八八〇	
四一	一,〇六六	一,七七一	八三四	七五	一,九三三,〇〇〇	一,五三六,二六六	七九・五	二,三〇八	
四二	一,八九九	一,七六四	一,七七七	三,三〇六	三,四三三,〇〇〇	三,一〇〇,一〇三	九〇・一	一,九三七	
四三	七,四一〇	五,八三三	五,五六	五,五六二	九,四三三,〇〇〇	七,七七七,六九二	八二・〇	一,七〇七	
四四	一五,四二〇	一八,二八三	一〇,三三三	一〇,九三九	一九,四三三,〇〇〇	一八,二九八,七四九	九三・九	一,九〇〇	
大正元	二七,九二六	一八,九二二	九,七五	八,八〇〇	二二,〇〇〇,〇〇〇	一九,二九九,〇〇〇	九一・〇	二,一六三	
二	一四,九九九	一三,三三〇	九,八〇四	八,九九〇	一〇,八三五,〇〇〇	一八,八八七,一八九	九〇・七	二,二三五	
三	一四,三二五	一五,六六〇	一〇,六九九	一〇,三六九	一五,二六二,〇〇〇	一三,〇八七,一五一	八七・六	二,三六五	
四	一〇,八三二	九,三二八	九,三三	六,九五〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	九,四二二,七一九	九四・二	二,七一九	
五	一〇,〇四八	七,九四二	五,七三	四,五七二	一〇,二二〇,〇〇〇	一八,六三〇,四九九	九二・五	三,四九九	
六	一〇,七八七	〇,七五三	九,四九五	七,九〇四	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一九,七五五,八三三	九三・四	二,三二九	
七	一〇,二九三	八,七四九	八,九二	七,二四一	一〇,〇八七,五〇〇	一九,三三三,二一七	九三・二	二,三四三	
八	一五,一三三	一四,九〇二	一〇,五三二	一〇,五九二	一五,〇〇〇,〇〇〇	一七,四九八,八五一	八九・九	二,四七七	
九	一五,〇五三	一八,二九五	一三,三七七	八,七三三	一五,〇〇〇,〇〇〇	一七,九八〇,四三三	九二・〇	二,二六五	
一〇	一四,七七五	一五,三六八	一三,六三	八,三九二	一四,〇〇〇,〇〇〇	一七,八五五,九三三	九〇・八	二,四三三	
一一	一五,四五四	一八,七八八	一四,一〇一	一三,六五五	一五,〇〇〇,〇〇〇	一九,七四一,七七八	九四・二	二,三四六	
一二	一〇,五三九	一四,四一〇	一三,八五三	一三,八五三	一四,三三〇,〇〇〇	一七,五〇六,八八四	八八・三	二,三五一	

與新潟縣水產試驗場二分

連年鱒人工孵化事業成績

年度	捕獲數(尾)		使用親魚數(尾)		採卵數(粒)	孵出數(尾)	孵化率(%)	均採卵數粒	分與數	摘要
	雌	雄	雌	雄						
明治二四					六三三	二五三	四六五	三七七,六〇〇		
二五					一,一三八	三三三	六七四	五二七,〇〇〇		
二六					四,六六七	三三八	三五六	五二四,〇〇〇		
二七					七九二	一九六	三九六	五二五,〇〇〇		
二八					三,五三一	二八八	五五六	二九八,八四〇		
二九					四四三	三三三	四四三	三三三,三四四		
三〇					八,六〇〇	四四六	七〇〇	六四〇,〇〇〇		
三一					一,三三八	四八七	六五四	五三三,〇〇〇		
三二					一四,一一九	七二七	二,一九九	九二〇,〇〇〇		
三三					五,一九〇	一,六八一	二,七五〇	一,三八〇,〇〇〇		
三四					四,二六	四一九	五九八	六九〇,〇〇〇		
三五					三,七六五	三三五	六八七	七九八,〇〇〇		
三六					七,五九九	五三三	一,〇四二	一,〇〇〇,〇〇〇		
三七					三,七三三	八五四	一,六五八	一,〇〇〇,〇〇〇		
三八					四,二三四	一,七七一	二,二八三	二,五八四,〇〇〇		

大正一三	二,九五二	三,〇二八	三,五二一	六,〇〇〇	九,五三二	二,四七三	八五・七	二,四七三		
一四	一七,八九二	〇,七九四	九,七八二	二六,三八六	三,六三九	〇,四三三	八七・八	二,四五三		
昭和元	四,七九二	八,三二九	五,九二二	三,三三三	九,七八二	〇,九八八	八四・七	二,五七六		
二	六,二九三	八,五九九	〇,〇〇〇	四,三三三	〇,八七〇	二,〇〇五	六一・三	二,三六三		
三	六,四三三	六,三三〇	一,〇二二	五,一五二	八,六五〇	三,一九〇	二,三六五			
四	二,八三三	一〇,四七三	三,三〇二	一〇,四八八	七,八二八	八,三三九	八七・一	二,四八五	九,八八〇,〇〇〇	鋼路水産會外ニヶ所ニ分與根室養殖水産組合ニ分
五	二,一八三	五,四四四	七,七七八	八,〇九八	〇,四七六	九,四四五	七五・八	一,六三七	三,八九五,〇〇〇	
六	二,三六七	九,七九三	二,一五九	〇,一六〇	五,六〇三	五,七六二	九三・五	二,九四九		
七	五,四五二	五,五二〇	九,六三三	五,〇〇八	二,九三三	七,九三二	九六・二	二,四四二		
八	一〇,六七〇	二,五〇二	二,六〇〇	九,〇八四	五,三二四	三,九六六	九五・〇	二,七〇五		
九	二,五五二	七,八四八	九,三七三	九,六九三	四,六六二	九,一五九	八八・五	二,〇四三		
一〇	三,九三二	四,四九二	三,五三三	三,〇三〇	六,八四一	八,四八八	八一・〇	二,一九四		
一一	一〇,〇〇〇	八,二五五	八,四三二	七,三七七	六,八九五	四,二七三	八六・六	二,一九七		
一二	二,九三三	八,〇五四	一,三三三	七,二四二	九,八四二	七,〇八三	九一・五	二,五〇三		
一三	五,二九九	四,七九九	四,三三三	四,三三三	二,四五六	六,六九七	九一・三	二,二五六		
一四	八,八九〇	四,五四二	四,六四四	七,一九九	三,七七八	二,〇九七	八七・六	二,一四九		

追
憶

在職二十有餘年を顧みて

— 附 摩周湖虹鱒移植 —

札幌市 内海 重左工門



虹別孵化場が本年を以て創立滿五十年となつたので、之れを記念する爲め協會に於て、記念號を發行するに當り當時の在職者の一人

として私にも是非何か思出を一つ書く事を協會の片山君より再三依頼を受けたが、而し私としては別に之れと云ふ特種の記録を持合せてゐる譯でもなく、唯々虹別孵化場に二十有餘年間先登其他各位の御世話になつて職を奉じたに過ぎない、私としては却て永い間何等見るべき仕事をして來たと云ふ譯でもなく、只だ職として成すべき

を爲したと云ふに止るので甚だ忸怩たるものがある。

一昨年千歳孵化場が創立五十周年を迎へ今又虹別孵化場が五十年に當る事は本道鮭鱒孵化事業界としては洵に此上もない御目出度い事と私共は衷心より祝意を表する次第である。

而し今回千歳、虹別兩孵化場が創立五十周年を迎ふるに當り茲に私共の考へられるべき事は、千歳にしても虹別に於ても同様であるが、今日斯くの如く好成績を挙げられた其の蔭には、創設當時より幾多先輩の方々が如何に此の事業の爲め心血を注ぎ苦心せられたか、今日斯く好成績を見る事の出來た事は之れ全く先輩各位の賜と深く感謝せざるを得ない。従つて既に故人となられた藤村森脇、藤井及小池仁郎氏、其他此の孵化場に關係した各位に對し私は深甚の敬意を表して居るものである。

緒て私が虹別孵化場に御世話になつたのは今を去る事約三十年前、即ち明治四十五年四月で、當時私は千歳孵化場に職を奉じて居つたので森脇技師より突然私に虹別孵化場に一ヶ年間だけ行つて來て呉れとの話があつた。

其の一ヶ年間が實に在職二十有餘年の永きに亘つた。而しながら私は今日之れを顧みて、別に永かつたとは思はぬ。私は一生を通じて孵化事業に生れ孵化事業に終るものと常に思ふて居り、初め千歳孵化場に十二年間、虹別孵化場に二十一年間御厄介になり今尙引續き本場に御邪魔になつて今日迄約四十年間を私は孵化事業で暮して居る様な譯であるから、如何に他に使へ様なない人間かは押し知るべきだと自分は常々思ふて居る。

虹別孵化場は明治二十三年十一月西別川口より約二十里の上流即ち西別川の水源地たる釧路國川上郡虹別村に適地を發見し、翌二十四年六月工事を完成し、以後三十九年に至る十七ヶ年間は根室外四郡水産組合經營即ち民營時代であつたが、翌年度より之れを官營に移管せられ、同四十二年に至る三ヶ年間は地方費を以つて經營し同四十三年度よりは北海道拓殖費即ち國費を以つて支辨し今日に至つたものである。私が赴任したる明治四十五年は當時私も二十八歳颯爽？たる青年官吏、而かも場長として其の得意正に思ふべき時代であつたが、其の一

面に於ては仲々一通りならぬ苦心も相當にあつた。何事に依らず創草時代と云ふものは種々なる問題が多く、私が奉職と同時に前場員が總更迭となつたが、爾後二十余年此の間の思ひ出も決して少くない、が私としては昭和三年に突發せし例の細菌の爲め多數の卵子を死滅せした事などは本道孵化事業上未曾有の事で天災不可抗力と申せ今日に至つても私は實に申譯ないと思ふて居る。

翻て虹別孵化場の事業の變遷に付ては種々あるが、明治四十三年私の虹別孵化場に行つた當時は一ヶ年鮭の採卵数は百萬粒より三百萬粒程度の極めて少なき採卵數に過ぎなかつた。幸に其後年々回歸魚の成績益々良好となり従つて事業も年を追ふて擴張し、採卵數も一千萬粒より二千萬粒と年々向上し遂に四千萬粒より更に五千萬粒の孵化放流を行ふに至つた事は別に私の努力といふ譯ではないが、要するに先輩各位の御指導と當時の在職者各位の一致協力孵化事業の爲め盡して呉れた結果と私は常々深く感謝して居る次第であつて、特に當時の根室鮭鱒養殖水産組合長小池仁郎氏が鮭鱒孵化事業に對する理

解と且つ熱心が私共の各種計畫に對し多大の協力があつたので、私としては自分の理想が益々實現して來た譯で當時小池氏の持論は根室國否北海道の鮭鱒漁業を安全に維持するには何んとしても人工孵化放流より外に途は絶對にないと云ふ確信を以て、如何に組合員其他の人々が反對するにも係らず之れを押し切り遂に根室國內の重要な各河川には孵化場を設け、私共當時の理想として居つた一ケ年の鮭孵化放流數一億五千萬粒實現の一日も早くらんやうにと努力して來たものであつた。

尙當時根室方面の鮭鱒漁業をして漁獲程度（當時一ケ年平均八千四百六十六石）を維持するとせば一ケ年少なく共約七千四百萬粒を孵化放流せば足る譯であるが、而し往時の根室國の盛況に恢復するには之れを以つて決して満足は出來ず、國內各方面に現存する鮭鱒漁業權百五十ヶ統に對して最も安全に之れを經營するには漁獲高を一ヶ統百石平均として總計一萬五千石の回歸魚を必要とするので、即ち前述の如く平均漁獲高の約二倍となるを以つて此の見地より採卵數を約一億五千萬粒として之れを

附 摩周湖鮭虹移殖

虹別孵化場を追憶して私には今尙ほ忘れる事の出來ない事は孵化場より北方三里西別岳の西北海拔一千七百七十五尺の高地にある、今は天下の名勝として國立公園地帯にあるあの神秘的摩周湖であるが、此の湖水は從來魚族の居らぬ怪湖として世に知られてゐたが、此の美しい湖水に魚の居らぬは甚だ遺憾と思ひ、之れを利用して養魚計畫を樹て時の森脇北海道水産試驗場長に再三之れに要する豫算を要求し實施を迫る事度々、然るに豫算其他の關係上即時實現するに至らず漸く實施するに至るや、當時偶々同湖一帯は帝室林野管理局なる御料地の關係上水面使用其他に對し種々困難の事情もあつたが、之れも當時弟子屈村御料局小田切出張所長の好意に依り解決し、大正十五年度より之れが事業を開始するに至つた譯である。

從來湖沼に於ける魚類の移殖は卵子の孵化後臍囊收縮浮游を俟つて湖水に放流するのが非常に好結果を得る事は當然であるが、摩周湖の如き其の當時何等の設備もな

完全に孵化放流する爲めには尙河川内の漁業を全部休業して親魚を上流に浜上せしめ、全部を採卵に供したる如き事は實に當時の孵化事業は全く官民協力の典型として斯界に誇るに足るものであつたと思ふ。

此の事は當時私共の理想を以つて小池組長に進言し、氏はよく私共の意見を採用せられ、組合をして實現に努力せしめられた事は、實に私の奉職中こんな愉快な事はなかつた。且つ又當時内部に於ては陰に陽に私の計畫に對しよく指導して戴いた故森脇水産試驗場長、半田技師（現水産課長）、飛島技師（現小樽水産學校長）を始め其他の人々並に當時私と共に事業に従事せられし各位に對し深甚の謝意を表する次第である。

私が虹別孵化場を去つて早や約十年、常に私にとりては第二の故郷とも云ふべき虹別は一日として忘れる事は出來ぬが、今や當時の人々も代られ事業の方法なども多少異つた點もある様であるが、創立五十周年の歴史をして益々光輝あらしめん事を祈つて敬まぬ次第である。

且つ又道路がある譯でもなく不得止初年度は虹鱒卵の孵化期の切迫せしものを普通の運搬方法に依り人背を以て湖岸に運び湖面二尺餘の結氷を破壊し、水深十尺内外の湖底小砂利の個所に撒布し、或は虹別孵化場にて孵化し臍囊收縮後小桶に僅かづゝ稚魚を入れ、各自が一個づゝ背負ひ吹雪を冒して西別岳を越へ晝なほ暗き密林や斷崖絶壁を各自「ロップ」に身を結び付け次ぎより次ぎと山猿の如き藝當を演じて湖岸に下り之れを放流した。斯くして大正十五年より昭和五年に至る五ケ年間に於ける放流種類並に尾數は虹鱒三萬六千二百二十尾、河蝦七千九百八十一尾、ステールベツトラウト一萬三千四百五十尾、クローフィッシュ四百七十五尾にして、其の結果昭和三年八月初めて第一回の捕獲試験を行ひたる處、虹鱒は何れも銀色澄濁として良く肥満し平均体長九寸二分、体量七十二匁にして其後益々蕃殖し、昨今に至り虹鱒の採卵數百萬粒以上の好結果を見、種卵は本道は勿論内地府縣へも分與するに至つた。之れ等は私共としては最も忘れ得ぬ思ひ出である。

虹別の思ひ出

水試稚内支場 田中林藏

學窓を出て始めて虹別に勤めた僕は何と言つても懐しいところであり、思ひ出多いところであつた。大正六年初釧路に着いてこゝで一泊、翌朝小さな發動機の小船で釧路川をボカボカ廻り夕方標茶に着いてまた一泊、其處から七里の山路を迎へに來て呉れた乙部捨松氏の荷馬車で夕刻思ひ出の虹別孵化場に着いたのであつた。構内を流るゝ清流には澤山のヤマベが泳いでゐる閑靜な景色よゝ山中生活は當時非常に氣に入つた。

場長内海氏は一から十まで何呉れとなく世話して呉れたし、場員も喜んで仲間にして呉れた。こうして一年は夢の様に過ぎて、翌年秋根室水試に轉じて十數年居つた。ところが圖らずも昭和六年秋前場長内海氏の後釜にと再び虹別に戻つた。場員の伊藤鶴松氏は最初虹別に勤めた

時の顔馴染で喜んで迎へて呉れた。

永い間水産試験場の仕事に馴れて再び孵化場に出た僕には、見るもの、聞くもの、新しい様な珍らしい様な仕事が多かつた。其後昭和十三年暮れまで足掛け八年間二分の興味と愉快とを以て勤めさせて戴いたのも一つは其のためであつたし、あの雄大な公園の様な構内で仲よしの場員と相共に暮すのが何より楽しかつた爲めであつた。

虹別の景、其れは毎日暮して居ても矢張りよいところであつた。數日の出張から歸つて來た時でさへも、あの盆地の構内が展開するあたりは何とも言はれぬ眺めで、思はず「孵化場は矢張りよいなア」と何時も叫んだものだ。

綠葉滴る赤タモの老樹の下にあの大きな白い門柱と、そして大きな瀬戸引きの門札が眼前に迫つて見えるあたり。平垣な長い、廣い、十間道路の奥まつたところに白塗の事務室と、廳舎、官舎の赤い屋根が綠草綠樹の中に點々と見え、構内には數百石の湧水不規則な清流となつ

て梅花藻を浮べて滾々と流れてゐる。構内各所には湧水池あり、噴水あり、懸瀑あり一大水郷をなしてゐる。こんな別天地の様な景色よゝ其れに學術的にも一般的にも非常に參考になる場所であるから、阿寒國立公園旅行の知名の士は絶間なく來訪される。其れが山中生活の場員にとつてはまた一つの楽しみでもあり、慰安ともなつた。

構内に咲き誇る櫻花は附近隨一のもので、孵化場のお花見と言つて近所隣りから相當集つて來たものだ。斯様に述べて見ると場員は毎日そんな景色よゝ所に仕事もなくブラブラしてゐる様にも想像されるが、仕事其れは大した忙しいところである。

構内湧水池飼育の虹鱒は十二月から四月まで採卵の時期であり、五月六月は摩周湖の虹鱒やステールヘットの捕獲採卵、七月八月は鱒、九月から翌年三月までは鮭の捕獲採卵、孵化室一杯詰まつた鮭卵は四月まで残つてゐるし孵化器の修理や手入れと仕事絶えぬ。思へば虹別は年中忙しいところであつた。

時々構内に迷ひ込む兎や鴨を捕へては自慢のライスカレーで場員の一大會食が時々決行された。孵化室に戸板二枚を並べて競争するのであるが、何と言つても大友、宮崎の猛將には幸内、小池の鬨將でさへも一步を譲つたものだ。

仕事の忙しい時は十七、八人の場員が居つた。出勤する、顔を合はせる、而してお互が「お早う御座います」其の元氣な、聲高らかな、朗かな言葉は今尙ほ忘るゝ事は出来ない。其れは朝から晩まで、春から冬まで一年中明朗に元氣よく、面白く働く一つの合詞ともなつた。

僕と一緒に居て呉れた伊藤、安田、小池、山田、橋本横平の諸氏は今でも虹別で相變らず元氣かなア。愛嬌ものの智坊はどうしてゐるかなア。あれもこれも皆思ひ出の種である。

虹別懷古

東北帝國大學 小久保清治

私も今は北海道をはなれ仕事も水産的でもない事をしてゐるが、北大に居た頃は毎年學生をつれて千歳の孵化場へ實習に行たし、虹別へも行た事があるし、また湖水あるきが好きだつたので方々の姫鱒孵化場をしらべた事がある。其のせいか今でも外國雜誌などに鮭鱒に關した論文でも出て居ると特別の注意と興味とをもつて讀んでゐる。

私が千歳へよく行たのは大正の始めの頃であるから、大分古い話であるが今日記を出して當時を懷古して見ると大正三年には十二月二十日から二十五日まで千歳にゐたが、其の頃新保の宿料は三食で五十錢であつた。採卵場の方には菊地さんが來て居られ、孵化場の方は藤井さんが元氣で波多野さんも居られた。同氏は追分がうまく

てゐる採卵場についた。其の夜は採卵場にとまり、翌日は藤田先生に命ぜられた鮭鱒せつばりなどの交配受精を行つてまた孵化場の方へもどつた。其の翌日は丁度標茶から釧路支廳の森田さんと云ふ人や、其の他に中野さんだの、中村さんだのと云ふ人といつしよに内海さんに案内して頂いて馬で虹別嶽に登つた。山頂にはガンコウラの實がみのつて居り、はるかに摩周湖が鏡の様に靜かに見えた。一行の辨當持ちに捨松と云ふアイヌが一人居つていろ／＼世話をして呉れたのであつたが、之等の人々はいまどうして居られるであらうか。

千歳にしても虹別にしても其の後大變便利になりよくなつたと云ふ事はきくが、自分は其の後の孵化場の様子は全く知らず、千歳の印象としては新保のおやぢや藤井さん、また虹別の印象としては内海さん、それから熊の出た夜の事などがうす／＼記憶の中に残つてゐるのみである。

夜には官舎にきかせに來てくれた。非常に細い聲であつたが節まわしは非常に上手であつた。

千歳にもまして印象の深いのは虹別へ行た時の事で、それは大正四年の九月で、十四日に驛邊の馬で釧路を出かけ塘路の宿にとまり、夕方塘路湖でブランクトンを探集した。翌日も馬で出發途中いらい雨に逢つて夕方びしよぬれになつて標茶の(糸氣仙旅館)についた。

其の翌日もまた馬で出かけたのであるが、これから山道になり、熊も出るかも知れぬと云ふので宿でかして呉れた喇叭を吹いてゐる。此の時候が喇叭を吹いてゐるといふのでひどく笑た人もあるが、實際は笑ひ事ではなく其の晩とまつた孵化場の裏手に熊が出て外につないであつた僕の馬や其の他の馬もやられ、中に一頭顔にきづをまいた馬があつて其の寫眞は今でも手もとにありいつも其の時の事を思ひ出す。

孵化場には二十二日まで滞在して大變内海さんに御世話になつた。十八日には内海さんに案内して頂いて三里三十丁とかある道をまた馬で走らせ、アイヌばかり働い

虹別の想出を語る

釧路市 嵯 峨 久氏談



私が虹別孵化場に御厄介になつたのは明治二十六年で十八歳の若年の時でした。孵化場入りした動機と云ふのは其頃國後の泊村漁業

組合が國後に孵化場を造る計畫があつて、私の實兄が同組合の役員をしてゐた關係上虹別へ孵化事業の見習ひに行つて來いと命ぜられて行つたのですが、當時虹別は八百萬粒の採卵數で、千歳を除いては全道一と云ふので大して鼻息か荒かつたものです。其の時孵化場に居られた三澤延吉氏、故人となられた鈴木幾太郎氏等に専ら指導をうけたものです。

私はシワンプトの採卵場にやられたのですが、當時の採卵場は名ばかりで、誠に粗末なバラック建で草葺の屋根が川の方へ差掛けてあつてそこで十二月三十一日迄採卵を致しました。

採卵方法は現在行はれてゐる方法と違ひ、採取方法でした。連れて行つた採卵人夫はアイヌ人で採卵した卵は虹別の本場へ駄送したもので、とても御話にならぬ程不便で非常な困難を伴ひました。

現在の虹別孵化場の事を承はりましたが、昔のそれとは誠に隔世の感がある程立派な想ですが、當時採卵場の寢室などは三尺に六尺ばかり、一即ち半坪位の處で雨が降ると雨洩りがするので合羽と毛布を冠つて寝ましたが兩側にアイヌ人が寝て居り、それが猛烈に臭くて全く閉口致しました。

丁度其年あの地方に地割れが出来る様な大地震があつて、その年に東京で開催される内國博覽會だつたと思ひますがその博覽會に出品する爲に作つてあつた標本が皆こわれて了ひました。アイヌなども生れて始めての地震

茶へ歸つたものです。

余りに邊鄙でしたから昔の島流しとはこんなものかと考へました。それで私は自分の前途に對して魚の産婆役として自分の一生を終るべきか種々悩みましたが、どうしても自分の性格と合致しないのです。何しろ少年時代の空想逞しい時には地味な仕事には興味は持てませんでした。然し此の立派な天職を放棄するからには一番發せねばならんと想ひました。それで翌年即ち二十七年の五月にやめまして國後へ行き孵化場の選定に行きまして、大休此處ならと云ふ處を見つきましたが、孵化場創立の實現はしませんでした。

私も今日どうにか人様の前は一人前の人間として出れる様になりましたが自分の生涯中あの山の中でたとへ一冬でも魚族の蕃殖保護の爲に努力したと思へば水産人としての私にとつては非常に誇らしい思ひ出です。又人工孵化事業に従事して生物界の微妙なる因果律を知り、私の人生觀の一端にその影響を多大に享けて居る事は否定する事は出来ません。あの時のことは全く生涯忘れられ

だと云つて大いに恐れたものです。私も六十有余年の生涯中會つた最大の地震でしたので其の印象は今でもハッキリ覚えてゐます。

アイヌと云へば私が虹別に居つた時は私が行く迄はあの附近のアイヌ人は若い十八九のシャモモなどは見た事などは無いらしく、毎日私を珍らしがつて見物に來るので弱りました。シャモと云へば大抵中年者の物凄く連中が相當彼等を虐待したらしく鬼の様に思つてゐたので優しい紅顔可憐の美少年、いや其程の事はなかつたのです。が何しろ若いのでから、物珍らしかつたに違ひ有りません。

アイヌを使ふには仲々骨が折れました。薪を取りにやると二日分も三日分も一度にとつて呉れば宜いのですが、どうしても一日分しかとつて來ず、サツサと歸つてくるのです。それに熊捕りに出掛けると仲々歸つて來ないので仕事に支障が起きて困りました。

その當時は又交通の便が悪く郵便物等は十二月から翌年の四月迄は來ません。虹別へ行くには標茶から歩き標茶へ歸つたものです。

世間では往々にして孵化事業の無用論等と云ふ暴論を吐く方も有りますが、私は絶対反對です。鮭鱒族の漁獲高は年々多少の減少はして居りませうが、今日尙吾人の食膳に供せられ外貨獲得の役割を果し、水産物の王座を守つてゐられるのは孵化事業のお蔭です。此點私は飛出しましたが、あの山間僻地に苛酷なる労働條件、交通の不便と云ふ障害と闘ひながら資源維持に努力せられてゐる孵化事業人に對しては多大の敬意を拂ふて惜しまないものです。

後年私が沿海州に參り、ロシヤの魚族蕃殖保護施設を目的の當り見ましたが、其の施行方針の徹底振りには大いに考へさせられる所が有りました。

從來より吾が國の漁業は掠奪漁業に専念し、蕃殖保護の方を等閑視した事は事實ですが、そこで私が今關係してゐる機船底曳網の問題ですが、之は皆様は掠奪漁業の王者である機船底曳網の統領ではないか云ふ事が予盾してゐると世間から御非難をうけるかも知れませんが、機

船底曳網と云ふものは大体百尋以上の深海で操業するの
で魚族の蕃殖保護上の影響から考へられれば寧ろ沿岸漁業
こそ影響する處甚大だと考へます。

吾々の運動してゐる機船底曳網の禁止反對論は唯徒ら
に利己的な利益追求から出發したものではないのです。
吾々とても魚族の蕃殖保護の必要性は人並に考へてゐる
のですから、其の點世間が誤解しない様にして頂きたい
と思つてゐます。

折角孵化場で苦勞して放流した稚魚を一網打盡式に混
獲して平氣な現在漁業者の自覺さには大いに反省の必要
ありますが、仲々此の弊を改めさすには至難でせうから
一つ貴協會あたりでパンフレットか何かで現在漁村の青
少年層に教化する様にしなければ適切な方法は無いと思
ひます。

それから最近河川に遡上して來る魚の魚体が昔より少
さい様に想はれますが之は採卵するのに昔と違ひ開腹方
法の爲月足らずと云つた様な關係からではないかと思つ
てゐますが、此の點孵化場の技術者の方に一度御伺ひし



化場の撰定した時は亡
くなられた根室の柳田
豊氏と藤野のどなたか
と私と三人で馬で見に
ゆきました。途中シワ
ンプトの土人の家に泊

つて熊が出るので恐る恐る行つたものです。

それから慥か明治四十三年でしたか私の店の代理で亡
くなつた増田密三郎氏が自分の名儀で鮭の入札に行き、
一尾八錢で落札したのですが、何分にも便利が悪く駄送
賃金が高いので間に合はず、遂に拂下げ保證金として役
所に預けた五百圓の公債證書を國庫に没收されるのを覺
悟して逃げて了ひました。決局私は五百圓丸損しました
がどうもあの時の交通不便さはどうにもならなかつたも
ので、虹別から釧路迄駄送したので、馬一頭に吠に
積めた魚十八個積むと精々でしたからどうにもなりません。
時間を無視してかゝる運搬ですから魚の入札はとて
も六ヶしいものだつたのです。

たいと思つてゐます。

大体以上の様な話で何分にも四十年前の事で、而も短
期間しか居らなかつたので話材は尠いのですが、終りに
臨んで虹別孵化場に御厄介になつ一員として今後益々同
場の進展を衷心より祈つて止まないものです。

(文責在記者)
記者註 磯崎久は本道水産界の功勞者で氏は常に水産界に於け
る新事業の爲に革新的な先驅者として著名であり現機船底曳
網整理水産組合長の要職に有る方である。

虹別孵化場の昔を語る

根室町 八木安太郎氏談

虹別創立以來五十年になると聞かされ、年月の早いの
には驚ろかされました。私も明治二十三年の虹別孵化場
創立時代から知つてゐますが、記録も日記も私の手許に
ないので何等之と云ふ面白い話も有りませんが、虹別孵

それで増田が逃げたので役所では魚の處分に困つてル
イベにして倉庫に積み再入札した結果、一尾五厘で落札
した方がありました。その方は交通の便が悪いので春ま
で搬出を止めて居りました處遂にいざ出すと云ふ時には
全部腐つて大損をした相です。

私共にとつては此の話は一つの笑話となつてゐますが
標茶から釧路迄の山道の物凄い峻嶮さにはあきれてゐま
したが、之は當時標茶附近に集治監があり囚人の逃走を
防止する爲馬背の様な山嶺を撰んだ相で之ではとてもた
まらない筈です。が明治四十三年に馬橋が如めて釧路迄
きく様になつてホツトしたのです。

私が虹別孵化場へ行つたのは明治三十年、と昭和九年
と二回で二度目に行つた時は餘り立派になつたので驚き
ました。之は昭和七、八年に組合の財政が宜かつたので
思ひ切つて金をかけたのですから立派な筈です。唯最近
の虹別は少し荒廢した相ですが、遺憾な事と思つてゐま
す。

どうか今後も益々虹別孵化場の成績を擧げて行く様に

孵化場関係者御一同に期待して居ります。

根室の組合については種々と話も有りますが之も昭和七、八年には全盛でしたが風運、薫別の擴張の爲に無理して借金をしたので段々苦しくなつて居りました。

組合も今後虹別孵化場の爲に出来るだけ御奉公致す考へです。折角私の様なものに昔話を御聞きになられるけれど餘り話材も無く失禮致しました。(文責在記者)

記者註 談者八木翁は本年八十五才の御高齡にも不拘今尚矍鑠として壯者を凌ぐ元氣さであらゆる方面に御活躍になつて居り根室町の元老として町民の畏敬の的であり、曾て水産界の功勞者として其の筋よりも表彰された方である。現根室鮭鱒養殖水産組合副組長の職にあり、孵化事業の爲にも小池仁郎翁、稻垣龍翁と共に盡された事は夙に識者の知る處である。

虹別支場創立五十週年に當り鮭鱒養殖功勞者故小池先生を追慕して

根室鮭鱒養殖水産組合書記長
守谷金次郎



私の忘れ様として忘れ難い印象は何んとしても前本組合長、故小池先生の偉である。私が白面の青年時代から御逝去迄實に二十七年間、識見抱負共に水産界の第一人者である先生が私達に發奮努力と人生行路の要諦とを諭された事は私の一生を通じての感謝であると思ふ。

恰も本年は光輝ある紀元二千六百年に會し、記念事業として北海道鮭鱒孵化場虹別支場創立五十周年記念號を發刊すると聞いて、同場と最も關係深かつた故小池先生

の在りし偉業の一端である鮭鱒養殖事業に盡された足跡と變遷とを回顧して、先生の偉を追慕することも徒爾ではなからうかと思ふ。

鮭鱒漁業に付ては私が喋々する迄もなく、本道水産物中重要な役割を占め、其の加工品たる冷凍、罐詰、煙製鹽藏品等海外に迄需要を高め價格も向上の一途を辿り、又漁撈の方法も幾多の變化進歩を見たが半面には濫獲酷漁の弊に陥り、蕃殖保護も遂に及ばず年歳漁獲の數も減じ古來豊饒の湖上産卵を見た河川も荒廢の極に達した處尠なからず、因つて本組合の前身、根室水産組合では自衛手段として明治二十三年に始めて西別川に鮭人工孵化場を設置し、鮭漁業の増殖を保持するに努め次で翌二十四年には標津川に、二十五年には羅臼川、忠類川、伊奈仁川に設置し明治四十三年故小池先生が組合長の就任と同時に改めて鱒の人工孵化も並行し續いて當幌川、奔別川、釧路川、風達川、當賀川にも鮭鱒人工孵化場設置を斷行し、漸次其効果を齎らし來り漁獲高も倍加の實績を擧げ回歸魚の確實性を認め得たので大正七年には鮭一億

粒、鱒五千萬粒の計畫を進めて益々人口孵化場の擴張に努めたのであります。

然るに日高、十勝、釧路及太平洋面の根室に明治の末期から鱒釣漁業漸次其度を加へて、不知時の漁獲も其延繩より流網を用ふるもの出で漁獲高も年々増加し、近時は數萬石以上を算し、遂に沿岸の鮭鱒漁業者に大いなる打撃を與ふるに至つた。従つて各河川に湖上する鮭鱒も漸減し孵化場經營の一大財源である親魚捕獲數を減じ道内の各孵化場は大正十三年以降眞に經營難を訴るに到り遂に大刷新革正の時期に當面したのであります。爾來鮭鱒沿岸漁業の實態は沖取の漁獲高に比例して毎年減少の度を加ふる事は争はれざる事實であると同時に、北千島の流網、定置漁業の急激なる勃興を見るに至つて沿岸漁業は一層の脅威を受けたるは、申迄もないのであります。

元來水産試験場の試験調査に係る數次の放流試験に依れば本道の鮭鱒と、勘察加、沿海洲、黒龍江乃至北千島樺太より日本海方面の數縣に於ける鮭鱒と密接なる連絡

あるは明白であつて、此の點から觀ても鮭鱒増殖事業は積極的擴張を要するとの着眼の下に、故小池組長は孵化場の新設擴張、移轉等山深き場所に探險せられて涙ぐましい迄の調査研究を重ね、起債八萬圓を新たに起し既設孵化場を擴張するの外大正九年度より向ふ五ヶ年に新設すべき孵化場と西別官營孵化場とを合し、毎年放流稚魚一億尾以上の理想を着々實現せしめて今日顯著なる漁獲の成績を見ました事は常人の到底爲し得べき事ではなく其の優れたる功勞は唯今筆舌によつて表現する事の出來ない所であります。

本年は恰も光輝ある紀元二千六百年に際會し、然も虹別支場開設五十周年に當つて衷心より記念祝福すべきであることは勿論、今後益々事業の進展を期し孵化報國の誠を盡し鮭鱒漁業永續の根本確定に邁進せられん事こそ地下に眠れる小池先生の切なる念願であらうと思ふ。

聊か先生を追慕し以上を連ねて祝辭に代る次第であります。

釧路間の其當時の道路は元標茶因治監の囚人が開鑿をしたので、非常に山坂が多い爲馬橋では運搬が困難の爲已むを得ず主として駄馬にて送つて居りました。其後此道路も段々改良せられ、馬橋、馬車を使用出来る様になりましたので、冬期間は塘路、遠矢の二ヶ所に、中繼所を置き釧路港へ送つて居りました。

然るに當時標茶、西別間は道路と稱すべきものなく、ほんの徑路のみであつたので、非常に交通に不便を來して居りました爲、私は當役場へ再々道路、橋梁等に付何とか通行出来る様に工事方をお願い致したるも、遺憾乍ら投場としては其當時土木費の豫算が一錢もなく、致し方ないと申された爲、自分が私費を以て道路及橋梁を修繕する事數回、それが爲に有難くも時の長官西久保閣下より、昭和四年依長官閣下より、昭和五、六、七年と四回に涉り感謝狀並に記念品を授與せられました。而して冬季間は毎年積雪多き爲運搬には相當苦心したので有りますが、殊に明治四十一年には非常なる大雪で西別、標茶間は到底駄馬で運搬が出來ず、已むを得ず手橋を以つ

虹別回顧

標茶村 木下 堅 三

私は明治三十年十一月三日日本村に轉住と共に牧畜業、運送業に従事致し、明治三十三年より昭和八年迄三十有餘年間西別川産の鮭の運送を爲し、又西別孵化場、ボンベツ孵化場、採卵場々員の米喰其他必需品、孵化場、採卵場に建築材料等の運搬を繼續致し居り其間又採卵場より孵化場迄の卵子運搬用駄馬の供給を致し居りました。

此の川の鮭捕獲は根室水産組合の經營に係り、組合は採卵後の親魚を年々競賣に附し拂下を致し、拂下を受けた人は是れを鹽藏して、西別より標茶迄駄馬にて運搬し標茶より川船にて釧路港迄送り、同港より汽船積にて青森他方面へ送つて居りました。

毎年十二月末より釧路が結氷する爲、標茶より釧路港迄駄馬又は馬橋にて運搬を致して居りましたが、標茶、

て西別よりキンマンタワ迄人力に依り運搬を致し、同キンマンタワより標茶迄運搬した事もあります。

當時鮭鱒運送の爲馬橋馬一〇頭、駄馬四〇頭を使用し居りましたが、偶々駄馬二〇頭に荷を付けて西別より歸りの際、大雪降りの爲にキンマンタワ迄來た時は最早一步も前進出來ず、遂に荷物を下し馬は附近の山に放牧して、それにつけたる荷物並に駄鞍二〇頭分は道の傍の橋の木の根に積重ねて、馬追ひと共に標茶の宅まで漸く辿り着きました。其翌日荷物並に馬を見に行くつもりでしたが毎日の吹雪が一週間も続き遂に馬を見る事も出來ず、漸く八日目に人夫十五人ばかり連れて見に行きました處二〇頭の馬が一頭も見えず、如何したかと方々尋ねて漸く五頭を發見したので、之を雪を割つて高い所へ追ひ上げて歸りました。翌日又搜索に行きましたが、あと一五頭の馬は如何して見當らず、其儘にして置きました處雪が少し淺くなつてから又探しに行きました所が、其の一五頭の馬は谷の深い所に雪の下になつて皆死亡して居りました。其れから高い所に追ひ上げて置いた馬は毎日

見廻り種々と手當を致しましたが、何分八日間も物一つ喰えずに雪の中に立つて居た爲充分に喰べる氣力が無く五頭の中三頭は倒れて了ひました。あと二頭丈は漸く救けた事もあります。

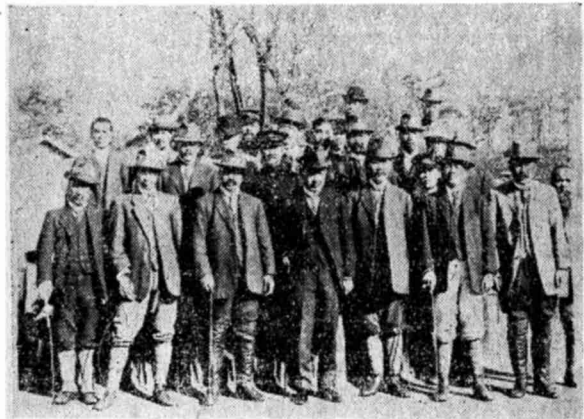
この以前明治三十七年一月頃かと思ひましたが、此年も非常に雪多く或日標茶より採卵場迄馬數頭を運搬の爲連れて行きましたが、遂に歸る事が出来なくなりましてので、已むを得ず今の虹別神社のある所迄、如何か雪を掘り分けて行き、其處に放牧して置きましたが遂に之も二頭倒しました。

何分雪が深いので、馬の飼料を標茶より運ぶ事も出来ず、又西別には飼料は皆無ですからこんな時は、なるべく高地の吹きさらしの笹の出でゐる處に置いて命をつながせて居つたのであります。其年は随分鮭が大漁でしたが、鹽も充分運ぶ事が出来ず、其が爲に鹽藏する事も出来ず、親魚買受人は、保證金を放棄して解約をしたので組合で已むなく、親魚を雪の中に積重ね、其本数は約四千本位でした。其れを入札に附しました所一本一錢五厘

其當時長官を送る爲に、根室町並に別海標津方面の有志一行が五、六〇人長官と西別へ來られました。其際村長初め吾々一同は長官と西別へ参りましたが、其時村長初め吾々一同は長官へ標茶、標津間の道路開鑿を陳情申上げました處長官も非常に御同情下され其場で、釧路土木所長仲氏をお招きになり、右道路開鑿に付御會話ありたる上、長官は所長に對し早速右道路を開鑿に取かゝる様との事でしたが、所長は本年は豫算がありませんからと申し上げところ、長官には豫算の方は何とか都合が出来るから俺と一しよに出札せよと申されたので、村長初め吾々一同は非常に難有く存じた次第であります。其日標茶小學校で長官の歓迎會を致し一泊、其翌日川船で釧路に御下りになりました。

其翌年より道路の實測に着手せられ、並に工事請負入札をせられました。

と云ふ相場で競賣になりました。それでも買受人は運搬に費用が非常にかゝるので儲がなかつたと云つて居りました。今では交通が備はりましたので、左様な事は昔話の様になりました。



(依長官虹別原野野視一行)

標茶では村長を初め吾々一同出ひの爲西別孵化場へ参りました。

其後大正六年頃時の長官依孫一閣下が根室原野御視察の爲濱標津より開陽、川北を経て中標津へ一泊翌日西別孵化場泊りにて、御來村になるに付

虹別に於ける追憶

東京市 上平八郎

私の虹別に赴任致しましたのは大正七年、夫れより數へて二十餘年の昔です。當時は一望千里とも申すべき原野の眞只中に虹別を中心に東方一里餘の處に奔別孵化場北方約二里を隔て西別支場あり、何れも五、六名の場員と外に虹別と西別との稍々中間に「アイヌ」の一小部落あるのみ、よく田舎道の淋しさを表言するに豆腐屋へ一里、酒屋に三里などと言ひますが、此處は七里も行かねば豆腐は勿論何の物資も買入ることが出来ぬ不便の處でした。始め私が奔別を兼て居りましたが後内藤氏や若い技術員が参りまして少しは賑やかになりました。

其の後(九年頃)私が計根別驛遞を兼營したことがありましたが、一ヶ年を通じての旅行者百二十何名かに不過、是も六、七月頃入殖地視察者にて普通の旅行者は僅々二、

三名のみ、此れを見ても如何に淋しかつたかと想像せられます。夫れ程未開地の處ですから白晝熊や狼が横行活歩、旅行者を劫かすことは茶飯事、私も二回程熊に襲われ危険に遭遇したことがあり、如何に淋しかつたか全く浮世離れた奥山の佗しき生活を具さに嘗めました。

人夫を雇入れが又容易の業にあらず、此の淋しき危険の處を犯しつゝ標津原野方面を八方駆廻ること二ツ月も三月もかゝり、どうやら頭敷を揃へましても病氣でもすれば職員も人夫の代用品として働かなければならぬ、否々大いに働いたものであります。

採卵には西別支場より場長か技手が参ります。時の場長内海重左衛門氏と技手の齋藤芳可氏が交互に出張される内海氏は會津出身氣骨もありましたが、兎に角圭角のとれた圓満なる常識の所有者で、常に奇行奇談に富み、出張中は冗談に徹夜は常例でした。齋藤氏については随分澤山の逸話も有りますが、後日の物語として省略致しましょう。

五、六月の春陽頃は孵化も一段落がつき、一時小閑を

當地唯一の交通機關の馬を以て致しますが、乗馬の不得意の諸君の時は臨時馬車を仕立てるなど随分手数を煩しました。御馳走は何誰でも二枚の布圍に二、三人づつの雑魚寝食物は山女の天麩羅か鮭鱒の一點張の料理、夫れでも皆様が舌鼓を打つて喜んで貰ひました。

斯様のことを書きますと際限がありませんから最も印象の深き事柄を二ツ程書て擲筆することに致します。

〔其の一〕 聊か敬神の精神を鼓吹の爲、大正九年虹別採卵場北方高地に地を定め、事代主命を祭神とする宮居を創立し、漁神社と稱號を奉り、祭日を十月五日と定め朝夕仕へ奉り、祭典日には一般に休暇を與へ、祭事は私自身是を執へ又餘興其の他を奉納し一日の勞を儲へました。此れが聽て根室水産組合に於ても之を認めらるゝに至り聊か素志を達し面目を得ました。(祭日を定めたるは其の前日移神祭を行ふに當り鮭親魚の初漁ありしを記念として定めたるなり) 辭職後其の消息を聞かざるも、採卵場移轉後如何になりしや、或は叢の内に風雨に晒され荒るゝがまゝ腐朽したるならん。當時を思ひ遺憾に堪へ

得ます。此の時を利用して場員一同が登山に、温泉に、湖水等と自然の風物を探勝しつゝ廻ります。是れが殆んど年中行事の一つに數へ、我々の享樂時代でした。此の時は大凡内海氏が宰領になるのが例でした。

又「アイヌ」と共にあの寒い山奥に固雪を踏んで熊狩に行つた時もあります。熊は仲々見付かりませんが時には大熊を見つけて捕へた時の愉快さは何とも言ひ現す言葉がありません。

狩で思ひ出の深ひのは何年ですか歳は忘れましたが、何でも一月の頃でしたか雪の烈しく降つた翌日、早朝計根別驛遷より虹別に歸る途中、當幌川橋附近にかゝつた時前方に大狐一匹が右往左往徘徊へつゝあるを發見、雪中二、三町も追ひまわし遂に捕へたる時の喜びは忘るゝことが出来ません。其の皮は記念として今猶保存してあります。

驛遷の設備がありましたも道廳の部、課、長其の他の官吏諸君が移民の狀態や、地形等々視察に來らるゝ時の宿屋は必ず奔別孵化場に定められたものです。送迎には

ません。

〔其の二〕 採卵適地の虹別發見者は小池仁郎翁にして今日根室に於ける凡ての孵化場は翁が人跡未踏の原野を跋涉し孵化に適する湧水を發見創設せるものなり。翁の鮭鱒孵化事業は之より日本の水産界に貢獻せる功績は遍く人の知る處なるを以て之れを省略致しますが、如何に御多忙の時と雖も年に一回は必ず孵化場を巡視せられ、我々を指導するに當り常に嚴格の内にも懇篤丁寧を極むる内に教訓を受くること尠からず、辭職後も時々御目にかゝりましたが、御誼の厚き常に變りませんでした。然るに前年物故せられ温顔に接し得ず特に追慕に堪えぬ次第であります。

虹別の昔

根室町 小池 庚 吉氏談

私が虹別支場と関係したのは明治四十年前後からで、四十二年及び三年には根室の八木商店の手代として親魚の入札に行つた。

四十四年には川網を整理せられて専ら親魚の浜上を圖る方針となり、捕獲は根室外四郡水産組合に一手に委託せられる事になつたが、私は其の捕獲場主任として赴任したので、當時西別分場から私に人夫四人連れて来いと云ふ御命令であつた。忘れもしない當時人夫の給料は月十五圓であつた。

それから大正五年迄同捕獲場に關係し、同年辭して大正十三年から昭和二年迄組合に居り、一昨年再び養殖水産組合に奉職し今日に至つたので、殆んど今日迄直接虹別孵化場とは深い關係を有つてゐた。

で、私は常に同孵化場こそ虹別原野開拓の第一の功勞者であつたと云つても敢へて憚らないと思ふのである。最も之は強ち虹別のみではなく古くから建てられた全道の孵化場は矢張り各々其の土地の開拓の爲に役立つと思ふ。北海道の開拓時代と孵化場は最も密接な關係あつた事を大いに識者の認識する處であつて欲しい。

それから創建時代の虹別孵化場にとつても、又虹別原野にとつても忘れられない功勞者は現標茶郵便局長木下堅三氏である。

氏は當町の交通不便な時に孵化場に入出入する物資、魚の運搬を一手に引受けられたのであつたが、此の仕事は並大抵の仕事ではなかつた。殊に冬期間になると虹別は絶海の孤島と同様で外界との連絡は唯木下氏のみによつたもので、此の使命を木下氏も宜しく自覺せられて氏の献身的努力が遂に虹別——標茶——釧路の交通路を完全なものにした。それが延いては虹別原野の開拓を早くからしめる原因ともなつたのである。

今日こそ標茶は鐵道交通の中心地點となつてゐるが、

以上のような譯で虹別に關しては種々と私の知つてゐる話はあるが昔の思ひ出話として、一つ二つ話して見ませう。

大抵虹別孵化場の人工孵化事業に對する功績は、今更喋々する必要がないと思ふから省略するが、同孵化場が虹別原野開拓に大功績があつた事は特に虹別原野地方の人々には銘記して欲しいものである。

今から五十年前の虹別原野は想像もつかない人外境で何里行つても道路らしいものはなく、丈なす雜草に蔽はれ歩まんとすれば丁度無數に張りめぐらした鐵條網の中を行く様なもので冬になると殆んど毎日西別岳嵐しの吹雪で手のつけられない處であつた。

此の荒野に孵化場が唯一の人家らしい人家として建つたのだから創立當初から大正の代に至る迄はずつと原野開拓の先驅者の爲の安息所となつてゐたので、熊の出る此の原野を彷徨する連中にとつては正に一つの光明の様な存在であつた。

又歴代の場員諸氏は宜く之等の人々の爲に盡したるもの

其の頃は千島あたりと何も變らない程交通不便で越年は冬籠りをしてゐなければならなかつた。夏の内は交通機關として釧路へ出るのに釧路川の舟便に依つたもので、冬になると川に氷が張るので交通は絶望に近い状態であつた。

木下氏の手によつて之が明治四十三年に始めて、馬橋で交通出来る様になつた。其迄は駄馬に依つたもので一晩に雪が五、六尺も降つて馬が一度に五、六頭も死んだと云ふ悲惨極まりない事もあつた。

若し氏の此の犠牲的奉仕が無かつたなら、孵化場も事業を施行する事が出来なかつたと思ふ。氏の此の功績に對しては私は常に敬意を表してゐるものである。

以上の外に種々と話はあるが、昔の虹別に關聯した忘れられぬ功績話を以て五十週年記念號の一端を飾らしていただく。

終りに臨んであの荒野の中で人工孵化事業の爲にあらゆる困苦缺乏を物ともせず奮闘せられた虹別支場關係者に對して謹んで敬意を表する次第であります。

(文責在記者)

虹別の想ひ出

富永眞佐利

私は大正十一年に虹別支場所屬標津事業場の助手として勤務してから、年二回位宛虹別支場へ赴いてゐるが、其の當時の場長は内海さんであつた。

標津から虹別迄の里程は約七里あり、道路とは全く名のみ雑草が繁茂して道か野か判別出来ない始末で、此の間人家と云ふものは唯二軒の驛遞があるのみ、實に寂しいもので、それに熊がよく横行するので空かんをつけてガラン／＼鳴らして歩いたものである。

支場へつくと構内は奇麗に手入れがしてあり、全く別天地にでも行つた様な気がしてホットしたものである。

當時吾々地方事業場員にとつては虹別へ行く事が無上の楽しみであつたが、絶海の孤島の中に居る様な虹別支場員の方々も嬉しかつた想である。ここでは種々技術上

の新知識を得られたもので、又支場員の方々からは種々丁寧な御指導して頂いたものである。

當時、事業場員としては何等文化の思想にも浴せざる山間僻地の生活であつたが、忘れる事の出来ぬ思ひ出して確か七、八年前で未だラヂオの今日程一般に普及せざる頃であつたが、内海支場長がラヂオを携帯して巡回に來られた。さあ大變、何分にも此の頃には虹別原野ではラヂオなんか見た事もない時なので、急造りのアンテナを張つたり電池の用意が整ひ愈々聞けると云ふ時には隣から隣へと聞き傳へてか（最も隣りと云つて半里位ある）澤山の聴衆が集まつた。所がどうしたものか其の日は調子が悪く切角期待した聴衆もがっかりして歸つたが内海さんは其れから大童になつて修理して、漸く翌日大成功し聴衆一同大いに喜んだ。今流行の戦線慰問の先驅であつた譯で當時の吾々はとても嬉しい事であつた。

其の後私が當幌事業場勤務中に細菌が發生して、函館高水の武田教授（當時北大水産専門部教授）が調査に御出でになられたが、どう誤り傳へられたか先生が北大病

院の大先生であると云ふ評判に、何分醫療機關の乏しい原野の事で診察を乞ふ多數の患者が集まり、拒絶するに大いに弱つた。中には魚の細菌の研究せられる方なら人間の細菌だつて譯る筈だなんて無茶言ふ者も現はれる始末であつた。然し考へて見ると僻地で病氣に苦しむ者は溺れる者薬でも掴むの心理で氣の毒であつた。

それから内海支場長の人工孵化事業に對する功績として忘れられないのは當時虹別支場では直營の捕獲場に未熟魚が多かつたので之を二重留式蓄養方法を考案せられ蓄養せられた結果非常に好成績であつた。それで當時當幌川が密漁が多くて取締りに全く手を焼いて居つたので之が解決方法として捕獲場を下流に思ひ切つて下げて、密漁監視區域の短縮を図る事が良いとなつたが、唯困るのは未熟魚が多くなる事で、内海氏に御相談した處前述の支場で試験済の二重留式蓄養方法の設備施行の御指導を得たので早速實行した處成績は大成功であつた。

其の後昭和九年孵化場は國營移管と共に、私は根室鮭鱒養殖水産組合に奉職する事になつたが、丁度其の年温根別の捕獲場の移轉問題が起り、當時の故小池組合長と共に道廳に陳情に赴いたが、其の時矢張り未熟親魚の間

題で容易に進行しなかつたが、私は体験済の二重留式蓄養設備に依る方法を説明して漸く了解を得たが、果せる哉其の年の捕獲採卵成績は劃期的な大成功を治めたので私としては生涯忘られない痛快事で、此の點ヒントを與へていたゞいた内海さんの功績を讃へるものである。

唯此の年採卵成績は大いに上つたが、卵輸送方法に缺陷があり死卵が多かつたのは非常に遺憾であつたが、當時虹別支場員幸内、並木の兩技手が研究の結果自動車に依る輸送方法が一番安定性がある事となつて、其の後専ら自動車を用ひてゐるが、昨年樺太で鮭卵輸送の大成功を新聞紙上で報導せられてあつたが、あれは決局自動車に依つたものだ想で、之は別に目新らしいものではなく、既に虹別では實施されてあつたものである。今の虹別ではより以上の最も簡單にして安全性のある輸送方法を研究して居られるとの事である。

以上が大體強く残つた虹別の印象で、私の半生は人工孵化事業に従事したが、今後も同事業に献身努力をする考へである。虹別の將來性は吾々の様な一介の人間の考へでも多少影響する處有りと考へ大いに虹別進展の爲に働きたいと考へて居る次第である。

論

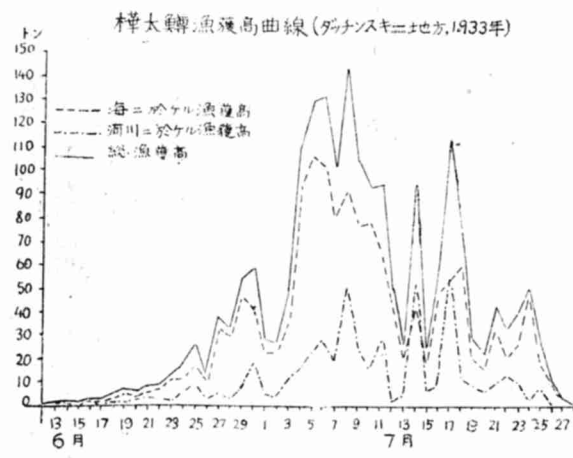
文

カラギン ス キ	1100	5083	57	66	97	95	1500	1550	1575	1600	1625	1650	1675	1700	1725	1750	1775	1800	1825	1850	1875	1900	1925	1950	1975	2000	
オリエイトロナワルスキ	95	106	117	128	139	150	161	172	183	194	205	216	227	238	249	260	271	282	293	304	315	326	337	348	359	370	381
アナヂル ス キ	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
計	126,750	100,000	130,000	150,000	170,000	190,000	210,000	230,000	250,000	270,000	290,000	310,000	330,000	350,000	370,000	390,000	410,000	430,000	450,000	470,000	490,000	510,000	530,000	550,000	570,000	590,000	610,000

(三) 沿海州に於ける樺太鱈漁期は他地方(ニコライエフスクを除く)に比して稍々早く七月前半期に盛漁期となる。(他地方では普通七月後半期に盛漁期が現はれる)沿海州に於ける樺太鱈漁業の中心地たるダツタ地方(略々樺太の恵須取の對岸に當る)の漁獲高の時期的變化は次圖の如くである。

(四) 沿海州ではあらゆる區域に樺太鱈の洄游を見、又沿海州の殆んど總ての河川には樺太鱈が溯上産卵するが、一般に南部は稀薄で北部に濃厚である。最も濃厚な群の來游するのは前記ダツタ灣地方であり、同灣に注ぐツムニン河には最も多く溯上産卵する。

(五) 沿海州樺太鱈の來游方向は、日本の朝鮮水産試験場で施行した朝鮮北部に於ける標識魚が沿海州の南部北部に於て數尾再捕された事實より遙か南方より北上して來るものと推定される。



(六) ダツタ灣地方に於ける樺太鱈の生物學的調査結果は次の如くである。

(1) 魚体は奇數年即ち魚群の濃厚な年に休長、体重共に顯著に大きく偶數年には其逆である。他地方では前記の如く

數年には魚群は稀薄であるが休長体重は沿海州奇數年の方が大きい。(第三表)又雌抱卵數年には平均一七九四粒なるに反し、偶數年には一一九二粒の僅少である。

第三表 沿海州樺太鱈の年次別休長体重

年次	最小	最大	雄平均	雌平均	總平均
一九三三	三八五	六六〇	五二七	四七二	四九三
一九三〇	三二〇	五九五	四七五	四四二	四六〇
一九三三	三二〇	五九〇	四八八	四六三	四九〇
一九三〇	三〇〇	五〇〇	四五〇	四三〇	四四〇
一九三〇	四〇〇	五〇〇	四八八	四三〇	四五九
一九三三	三〇〇	四〇〇	三六〇	三六〇	三六〇

(2) 同一年内の漁期中に於ける休長、体重の時期的變化は殆んど認められない。

(3) ブラウチン氏に依ると黒龍江産の樺太鱈は其鱗の中心部に河川生活の痕跡(鱗脈の特に密なる部分)が認められると云ふが、著者の調査ではツムニン河(ダツタ灣に注ぐ)産の樺太鱈では此物は認められなかつた。此の中心部の痕跡は河川生活期を表はすものではなく降海後暫時淡水中に滞泳した印でおろすと推定せられる。鹽分

を含みぬ黒龍江の入江、及シランチエワ灣に注ぐフジ河、ヂュアンク河産のものには著者も此痕跡を認めた。

(4) E・レアの方法に従つて鱈の成長度から休長の成長度を算出すると、雌雄共第一年目より成長度が大である。

(5) 急速な成長の開始は稚魚の降海期たる六月中旬頃と推定される。ツムニン河及ウリケ河口へ稚魚の降るのは普通五月下旬から六月中旬頃を認められる。稚魚群は干潮時に多く現はれ満潮時には著しく減少する。一日の中では早朝及夕方に最も多く現はれる。降海しつゝある稚魚の大きさは三、四—三、六糎である。

(七) 沿海州に於ける樺太鱈の重要な産卵場を有する河川はワニナ灣に注ぐウイ河、シラチエワ灣に注ぐ大ヂュアンク河、小ヂュアンク河、ダツタ灣に注ぐツムニン河(支流のウリケ河には重要な産卵場がある)及チムイヂュア灣に注ぐチムイヂュア河等である。

最後に著者は、目下の處江州の樺太鱈のストックは略々安定の状態にあるが、漁獲能力は益々増大して來てゐるのであるから、河口及河川中の魚群は本漁業確保の不可侵資源として極力保護の必要ある事、及樺太鱈の減少した河川への移殖の要を強調して結んでゐる。

石狩川口に於ける鮭親魚の採卵に就て

岸 田 敏 明

本道に於ける鮭鱒漁獲高の消長は四年前の孵化放流数の多寡に依る事は過去の統計に依り明瞭に證明せられて居る。依つて上流孵化場の採卵数の不足なる場合には之等下流又は海面にて漁獲せるものを親魚として利用し、

卵子を充實せしむる事の有利なるは論を俟たざるところである。石狩に於ては昭和七年十二月の禁漁日より昭和八、九年又十二、十三年と過去五ヶ年に亘り石狩川に親魚の採卵を施行し上流孵化場の收容卵の充實に努めて居るが、之を事業化し孵化事業を遂行するには漁業者、漁業組合、孵化事業者が三者一体となり連絡統一の上仕事を施行するに非ざれば其の實績を擧げる事は困難な問題である。故に業者は只漁獲に専心するのみでなく、一層孵化事業に對し認識を深くし、孵化事業者と協力し、非常時局下の生産擴充に邁進されん事を希望する次第である。今年も亦千歳事業場卵子充實の爲石狩町漁業協同組

合に依託の上本事業を施行せるに依り簡単に其の状況を記し参考に供したいと思ふ。

一、親魚捕獲期間及方法

本年度の施行期間は石狩川鮭漁業の禁漁日の内十一月十一日より十五日間の禁漁日にして、地曳網、刺網業者をして繰業日同様漁業に従事せしめ、成熟せるものを撰びて採卵に供せり。地曳網捕獲魚は生簀に一時蓄養し一定數量に達したる後採卵を行ひ、刺網捕獲魚は翌朝採卵場に運搬せしめ斃死後短時間を経過せし親魚のみを採卵に供する豫定の處、斃死後長時間を経過したるも多く今回は刺網魚は採卵せず曳網魚のみを使用せり。

二、親魚捕獲及び採卵状況

施行期間十五日間に於ける捕獲数は三千八百三十二尾

内地曳網に依るもの一千六百五十二尾、流網刺網に依るもの二千一百八十尾なり。親魚の成熟状態を見るに十一月中のものは全部未熟なる故採卵不可能にして十二月より採卵を開始せり。採卵數一百十三萬粒なるも其の外に本年度は捕獲魚の未熟魚及び採卵不適當親魚に對する卵

子の補充として普通繰業日に於て地曳網に依り捕獲せる親魚に依り卵子を補充する事とし、雌雄混合し一尾一粒の割にて補充せり。此の補充卵九十六萬五千粒にして本年度採卵數合計二百九萬五千粒なり。之を過去に於ける成績と對照すれば次表の如し。

年度別	漁具別	捕獲數		使用親魚數	採卵數	運搬に依る死卵數	運搬所要時間	摘要
		雌	雄					
昭和七年和	刺網	六九六	四四五	一、四四二	一、四四二	四〇、四八三	六—二四時間	馬櫓、汽車、舟に依り千歳收容
八年	曳網	九九五	五九三	一、四六八	一、四六八	一、五〇〇、一、〇〇〇	三時間	トラツクに依り千歳收容
八年	刺網	八三三	一、〇八七	一、九二〇	一、九二〇	一、八、五〇〇	三時間	トラツクに依り千歳收容
九年	曳網	二、七四〇	一、二五八	三、九六八	一、七、七四〇	一〇〇、〇〇〇	三時間	トラツクに依り千歳收容
九年	刺網	三、三七四	三、五五八	四、九三三	四、九三三	一〇〇、〇〇〇	三時間	トラツクに依り千歳收容
十二年	曳網	二二	一五	四〇	二	一、一〇〇	三時間	馬櫓、トラツクに依り札幌本場收容
十二年	刺網	一五	一三	二八	五	二〇〇	三時間	馬櫓、トラツクに依り札幌本場收容
十三年	曳網	一、六四三	一、五〇〇	三、一四三	六九六	一、〇〇〇、〇〇〇	三時間	馬櫓、汽車に依り千歳收容
十三年	刺網	一、七四五	二、五二〇	四、二六八	三、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	三時間	馬櫓、汽車に依り千歳收容
十四年	曳網	九六	六七	一、六三三	二四八	一、一〇〇、〇〇〇	三時間—	馬櫓、汽車に依り千歳へ收容、早期に依り本場收容
十四年	刺網	一、〇五四	一、二二六	二、二八〇	六二二	一、一〇〇、〇〇〇	一五時間	馬櫓、汽車に依り千歳へ收容、早期に依り本場收容

備考 昭和十四年度は前表の外採業日採卵のもの九十六万五千粒あり

小樽市	函館市	室蘭市	釧路市	留萌				宗谷		計	常呂別
				天鹽	苫前	留萌	増毛	枝幸	宗谷		
			21	2,396	635	173	915	1,630	766	9,077	1,100
			104							3,500	3,500
			21	2,396	635	173	915	1,630	766	12,877	1,100
			3,648								

白糠	計	日高				計	幌別	白老	勇拂
		十勝	廣尾	浦河	三石				
	1,615	950	665	2,050	2,011	4,911	50	30	25
10	80		80	400	200	1,930		300	
10	2,435	950	1,485	2,450	4,211	2,420	50	300	25

市支別	石狩	計	漁獲	
			沿岸	沖合
朝里		1,100		
入舩		5,456		
余市		5,335		
神惠内		3,310		
泊野		1,000		
島野		200		
樟岸		200		
		1,100		
		1,444		
		99		
		400		
		5		
		1,444		

鱒ノ部

前年度	總計
47,833	58,959
22,322	31,773
68,955	90,732

網走	斜里	計	根室						計	釧路	
			藥取	紗那	擇捉	國後	色丹	目標			
		2,007	6,326	8,336	3,010	641	603	968	369	774	50
		1,175									197
		2,007									197
		1,540									6,733
		3,647									1,833
		3,647									6,960
		2,007									183

		銅路		十勝				
根室	花咲	白糠	厚岸	廣尾	十勝	浦河	幌泉	浦河
計	計	計	計	計	計	計	計	計
108	108	346	346	19	1,131	365	33	365
5,266	5,266	6,389	6,389	466	1,945	1,621	263	79
1,085	1,085	6,389	6,389	485	7,269	2,940	294	443

		檜山				後志		
奥尻	檜山	久遠	太櫓	瀬棚	計	磯谷	古平	余別
計	計	計	計	計	計	計	計	計
304	304	154	7	33	35,789	300	400	4,550
48	48	154	7	33	35,789	300	400	4,550
353	353	154	7	33	35,789	300	400	4,550

		宗谷		網走				根室
禮文	宗谷	枝幸	計	紋別	常呂	斜里	計	藥取
計	計	計	計	計	計	計	計	計
3	8	5	183	6	20	97	6,287	57,326
1	1	1	6,120	1	1	1	6,120	2,889
3	8	5	183	6	20	97	6,120	57,326

		日高		膽振		渡島		
三石	靜内	新冠	沙流	計	勇拂	白老	幌別	有珠
計	計	計	計	計	計	計	計	計
95	354	858	2,489	363	150	65	40	45
15	100	89	506	100	90	27	99	184
110	454	947	866	466	250	155	40	260

島 渡		山 檜														
知内川	福島川	及部川	鴨津川	茂草川	計	石崎川	天ノ川	厚澤部川	相沼内川	姫川	見市川	具取澗川	小川河	太櫛川	突符川	利別川
二〇	三〇	三三	一〇	八	四五四	三三	二九	一一	一九	二六	三二	八	二二	四三	一三	一五〇
五〇	四〇	三三	三三	三〇	六八八	四	九	二七	七	五	二	六	二	四	三〇	一〇〇
五〇	四〇	三三	三三	一八	二九三	二七	四	九〇	二	一五	五	五	七	四〇	一〇	五〇
一一〇	一〇〇	三三	三三	三	一、四三五	一〇三	一六	四七	二六	八	四	一九	三	二五	五	三〇〇
福島村						〃	上ノ國村	泊澤部村	〃	乙部村	熊石村	〃	具取澗村	太櫛村	熊石村	澗棚町

狩石 濱益川	支 廳		漁 獲 高 (貫)	摘 要
	河川名	月		
	七月			
	八月			
	九月			
	十月			
	計			

昭和十四年度鮎漁獲高調

前年度總計	總 計	釧路市	室蘭市	函館市	小樽市	留 萌			
						增毛	留萌	苫前	天鹽
七、五八六	二四、二九九	八五	九	七九	四四	二一五	二五八	三四	三六
一七、〇五五	一六、〇二六		六五						
八八、六一	一四〇、三二五	八五	七四	七九	四四	二一五	二五八	三四	三六

前年度 漁獲高度	合 計	留 萌				計	知内川	大當別川	茂邊地川	木古内川
		增毛川	磐塞別川	箸別川	信砂川					
一、六〇〇	七七五									
四、三〇〇	六、六四四				一、四九九	三〇	二〇〇	三〇〇	九〇	
五、八三六	五、四六八	二〇	五	五	五	二〇	一〇	一〇〇	〇	
一、七五八	一、九八五				一〇八					
一、三、六四八	一、四、九〇三	二〇	五	五	五	五〇	八〇	七〇〇	一七〇	
					二、三一一	知内村				

計	志 後										計	厚田川			
	折平川	大平川	古宇川	野東川	堀株川	千走川	泊川	朱太川	尻別川	美國川			横丹川	余別川	古平川
七七五														七七五	
四、六六〇	二	七	二	八	一	二八	二四	一、二二五	四五	三〇	四〇	七〇	三、一八二	六二	
三、九四三	二	八	三	二	三	六	七	一、〇一〇	八一	二五	九〇	二〇〇	三、〇四	三〇	
一、五五〇、八九三	一	七	二		一	八五	六三	二〇〇	三五〇	五	三〇	一〇	七三三	六九	
	五	三	七	一〇	五	一六〇	一八二	二、四二五	四七六	五〇	一六〇	二七〇	四、九〇六	四三	
	〃	東島牧村	神惠内村	島野村	泊村	〃	西島牧村	歌葉村	磯谷村	美國町	入刺村	余別村	古平村		

會報

第十二回總會記事

本會第十二回總會は去る六月二日帯廣市十勝商工獎勵會會議室於て開催せり。稻垣會長欠席の爲齋藤副會長議長となれり。概況を左に要録す。

一、出席者 (順序不同)

齋藤主計 齋藤兵太郎 井筒宇三郎
 淺野政勝 齋藤憲彰 東出快次郎
 今野爲治郎 梅津喜郎 阿久津香
 八木澤繁次 渡喜惣八 若林友三
 佐々木龍助 大西眞平 湯淺健治
 和田一夫 明石幸輔 吉野武者二
 丸山治市 石田露松 垣川松次郎
 新谷廣治 水澤一郎 竹内學一
 堺千代吉 飛田辰次郎 松村正三郎
 南出岩吉 半田芳男 野田信俊
 内海重左門 菊地覺助 酒井一郎
 高木爲吉 町田秀治 宮崎朔男

奥村久雄 片桐正吉 武田尙秀
 幸内慎治郎 鴨川肇 石井久治
 榎本仁太郎 瀬谷求馬 長谷川清吉
 古都儀一 小林教司 大尋寺政治
 岩佐忠重 山屋直次 鳴海雄三
 田中林藏 片山亮一 (以上五十三名)

二、経過

第十二回總會提出議案

◎第一報告事項 昭和十四年度廣事業報告

一、事業報告

一、會員數 (昭和十五年三月三十一日現在)
 一種會員 一〇三名
 親魚捕獲受託者 三十三名
 養殖事業經營者 十七名
 鮭鱒漁業者 五十三名
 二種會員 百七十一名
 計 二百七十四名
 備考 十四年度中の異動は死亡一名、入會二名脱會五名なり。

二、機關誌の刊行

鮭鱒堂報十一年第三十九號及び第四十號を發行し會員、關係官

廳其他に配布せり。

三、會議

第十一回總會は十四年六月五日網走町に於て開催したるに出席者六十名にして盛會なりき。

四、普及宣傳

ジャパンタイムズ社が昭和十四年九月「英文・日本水産大觀」を刊行する事となりたるが、該誌は本邦の知識階級層は勿論遠く海外に迄汎讀せらるる事實に鑑み本道鮭鱒養殖事業の趣旨、効果の普及宣傳を目的とし「北海道に於ける鮭鱒養殖事業」と題し本會半田理事長の執筆に係るものなるが本會に於て之れを購入し北海道鮭鱒養殖場、支場其他關係方面に寄贈せり。

五、其他の事業

(イ) 大日本水質保護聯盟に加盟
 水質汚濁に依り蒙る水産事業の影響の甚大なる事は識者の夙に憂ふる處なるが昭和十四年十月二十八日東京に於て大日本水質保護聯盟設立せられ、該問題の解決の爲全國の關係者をプロツクとしたる強力なる団体となす事となり、本會にも加盟方途通

ありたる以て鮭鱒養殖事業の將來に對し多大の不安を持つ此種問題の研究上共鳴する點多々あり加盟せり。
 本會長は設立と同時に理事に選任せられたり。
 右滿場一致承認さる。

二、收支決算

昭和十四年度收支決算

科目	經常部		臨時部	
	豫算	決算	豫算	決算
收入	一、〇六・三三	一、二六九・三三	一、七五・五五	一、八〇三・六〇
支出	一、〇六・三三	一、二二二・八八		一、二六・〇〇
差引		殘六・四五		殘一、六三・六〇

三月三十一日現在殘金一、六一九圓一五錢

収入

科日	豫算	決算	増對	減、比	說明
一、會費	四四〇・〇〇	四六一・〇〇	一一・〇〇		一種會員 一七七名 二種會員 一一三名

計	支 出		對 比	說 明
	豫 算	決 算		
二、寄附金	300.00	300.00		北海道鮭鱒保護組合より
三、雜收入	300.00	311.00		雜誌及び印刷物賣却代六九圓 廣告料一三五圓、標本賣却代七圓
四、過年度收入	10.00	16.00	16.00	一種會員一四名 二種會員一五名
五、前年度繰越	11.14	11.14		
計	1,041.14	1,164.14	102.00	

支 出

科 目	豫 算	決 算	對 比		說 明
			增	減	
一、給與	250.00	233.40		36.60	事務囑託者手當及傭人給料二五八圓四〇、寄稿謝禮五圓
二、事務費	100.00	155.40	55.40		筆、紙、墨、用紙代
需 要 費	20.00	36.50	16.50		
通 信 運 搬 費	20.00	35.00	15.00		
旅 費	20.00	81.90	61.90		總會出席旅費
三、事業費	355.00	599.90	244.90		彙報一、〇〇〇部代、別刷一九〇部代、總會議案一〇〇部代
印 刷 費	335.00	390.00	55.00		總會一回
會 議 費	150.00	100.00		50.00	圖書購入代
普 及 宣 傳 費	100.00	90.90		9.10	

計	支 入		對 比	說 明
	豫 算	決 算		
四、雜費	20.00	67.55	47.55	
五、會長交際費	100.00	158.65	58.65	
六、豫備費	16.14			16.14
計	1,041.14	1,126.25	101.55	

差引殘金 六圓二五錢 次年度へ繰越
二、臨時部

收 入

科 目	豫 算	決 算	對 比		說 明
			增	減	
一、前年度繰越	1,736.35	1,736.35			
二、雜收入	10.00	76.37	66.37		利子二六圓三七錢 未納負擔金收入五〇圓
計	1,746.35	1,812.72	66.37		

支 出

科 目	豫 算	決 算	對 比		說 明
			增	減	
一、退職賞與		100.00	100.00		囑託退職に依る

二、雜支出	20.00	20.00	20.00	大日本水質保護聯盟會費五〇圓 創立寄附金三〇圓加盟金一〇圓
計	120.00	120.00	120.00	

差引殘金 一、六一二圓九〇錢 次年度へ繰越

右滿場一致承認さる。

◎第二協議事項

協議第一號 昭和十五年度事業計畫並收支豫算

一、事業計畫

時局に鑑み且本會收入減の狀況を參酌し事業の宣傳普及、重要資材入手難に依る代用孵化器の考案助成等時局下に於ける國策に副ふ様計畫せんとす。

一、機關誌の刊行

從來の榮報の紙數紙質を低下し且發行部數を年を通じ一千部に限定す、其の他の印刷物も之を節約す。但し虹別支場創立五十年記念號を含む。

二、會議

總會一回、役員會一回

三、普及宣傳

孵化事業に對する一般大衆の認識は未だに徹底化せざる爲か稚魚の保護取締、密漁取締等に對する觀念に住々遺憾の點多々あり適當なる方法にて之を宣傳せんとす。

り適當なる方法にて之を宣傳せんとす。

四、助成

時局下に於て從來の孵化器材料は其の補給益々困難となるに依り之等材料を使用せずして出來得る改良孵化方法の新考案を懸賞に依り募集せんとす。

五、其の他の事業

(イ) 虹別支場創立五十年記念事業
本年は虹別支場創立以來五十年に當る爲之が記念事業として先年榮報千歳五十年記念號の好評なりしに鑑み鮭鱈榮報第四十一號を記念號として刊行せんとす。

(ロ) 擇提支場當路事業場創立五十年記念事業
本年は當路事業場も創立以來五十年に當り之が記念事業として鮭鱈榮報第四十二號を記念號として刊行せんとす。

二、收支豫算

一、經常部 收入

一、會費	400.00	一種會員 二元名 一名五圓 受託者 一名 一名五圓 養殖者 一名 一名五圓 漁業者 100 統 一圓七圓 二種會員 100 圓 二五圓
二、寄附金	1,000.00	篤志者寄附
三、雜收入	300.00	利子、設計料、印刷物賣却代、其他
四、過年度收入	10.00	
五、前年度繰越	六・五	
計	1,776・五	

支出

一、給與	200.00	事務囑託者手當二五〇圓 寄稿謝禮五〇圓 (虹別五十年記念號分も含む)
計	200.00	

一、篤志者の寄附は保護組合及び虹別支場及當路孵化場創立五十年記念號刊行に當り關係各團體より協力を仰ぐものなり。

二、事務費

二、事務費	110.00	筆、紙、文具費
需要費	35.00	
通信運搬費	25.00	
旅費	40.00	職員旅費
三、事業費	1,100.00	
印刷費	450.00	榮報1,000部代、四五圓(前五十年記念號) 別刷 若部代 二五圓(前分も含む)
會議費	25.00	總會一回、役員會一回
普及宣傳費	100.00	宣傳ポスター1,000部 二五圓其他
助成費	100.00	改良孵化方法の新考案に對する助成費
四、雜費	100.00	大日本水質保護聯盟負擔金五〇圓其他雜支出
五、會長交際費	100.00	
六、豫備費	六・五	
計	1,776・五	

前年度豫算より六九五圓一二錢増額したるは虹別支場創立五十年記念號の刊行と普及宣傳費の増額、助成費の新規計畫増額に依るものにして其の他の費目に於ては前年度の實績を考慮し些少の増額せしも極力節約に勉めたり。

二、臨時部
収入

科 目	豫算	摘 要
一、前年度繰越	一、六三・六〇	
二、雑 収入	一〇・〇〇	利子其他
計	一、六三・六〇	

備 考

右金額は本會事業資金として積立つるものにして緊急已むを得ざる場合の外支出を爲さず。

右原案通り承認さる。

協議事項第二號 本會改組に關する件

客年全國的廣範圍の鮭鱒保護聯盟結成の機運がありしにより本會も適當の方法にて合流せんとする意圖の下に前年度總會に協議したるも該聯盟は未だ具体化せざるにより適當の時期に至る迄保留せんとす。

右原案通り承認さる。

協議事項第三號 本道鮭鱒孵化場發祥地記念碑設置に關する件

本件は前年よりの懸案なりしが建設費は大体五百圓程度なるも時局下資材其他の關係を考慮し適當なる時機迄保留する事にせり。

右原案通り承認さる。

理事長 北海道鮭鱒孵化場長を以て任ずるも目下欠員に付新場長を推薦する事。

理事 根室鮭鱒養殖水産組合

齊藤兵太郎 十勝鮭鱒養殖水産組合長

鳥海武夫 函館漁業家

小川助次郎 遊樂部川鮭魚蕃殖組合長

加賀谷 與三郎 枝幸漁業家

吉野武者二 札幌養鱒業者

協議事項第四號 役員選任の件

本會役員は昭和十五年七月十四日を以て任期満了となるも、期日を繰上之を選任する事になり九名の幹衝委員を擧げ之に附託し慎重審議の結果左の諸君新役員として選任せる旨委員長より報告ありたる處滿場一致を以て承認さる。

記

一、前會長稻垣龍君を顧問に推薦す

二、新役員

會長 半田芳男

副會長 齊藤主計 膽振水産會長

大西眞平 紋別鮭鱒養殖水産組合長

理事長 北海道鮭鱒孵化場長を以て任ずるも目下欠員中に付新場長を推薦する事

理事 根室鮭鱒養殖水産組合

浅野政勝 厚岸鮭鱒養殖組合長

理事 榎本仁太郎

齋藤兵太郎 十勝鮭鱒養殖水産組合長

水澤一郎 大津村漁業家

井筒宇三郎 網走鮭鱒養殖水産組合

村山喜作 枝幸鮭鱒養殖水産組合

竹内學一 雄武村漁業家

天野佐市 枝幸村漁業家

加賀谷 與三郎 同

若林友三 天鹽鮭鱒養殖水産組合長

南出岩吉 増毛町漁業家

明石幸輔 上川養魚組合長

野田信俊 道廳水産課農林技師

吉野武者二 札幌市養鱒業

高津彌三吉 日高國水産會副會長

上杉六左工門 壽都漁業協同組合長

古畑慶助 瀨棚郡漁業協同組合長

小川助次郎 遊樂部鮭魚蕃殖組合長

齋藤榮三郎 擇捉島水産會長

八木澤繁次 羅臼鮭鱒養殖組合長

栖原忠雄 函館市栖原商店

谷茂平 函館市漁業家

鳥海武夫 同

向井勇次郎 國後養殖水産組合長

函館市に於て五月上旬開催に決定す。

協議事項第六號 孵化場勤務履員退職に際し本會より慰勞金贈呈に關する件

本件は提案者十勝鮭鱒養殖水産組合、賛成者水澤一郎君、内海重左工門君、水澤一郎君より提案理由を説明全會一致を以て右原案に賛成之が實施方法は役員會に一任する事に決定せり。

協議事項第七號 見舞金贈呈の件

提案者十勝鮭鱒養殖水産組合、賛成者水澤一郎君、内海重左工門君、本件は枝幸村未曾有の大火災害に對し罹災者たる左記本會々員に適當なる御見舞贈呈に付提案者より説明あり、全會一致賛成見舞の方法に付正副會長に一任する事に決定せり。

記

村山喜作君

天野佐市君

加賀谷 與三郎君

協議事項第八號 鮭鱒流通取締に關する件

提案者榎本仁太郎君、賛成者大西眞平君、竹内學一君、本件は榎本仁太郎君より取締強化の必要性を會員一同に認識せしめ又臨席官には陳情的説明をなしたり。

以上を以て會議終了後左記視察案をなせり。

イ、商工獎勵館内十勝名産陳列場

ロ、藤森養鱒園

ハ、北海道鮭鱒孵化場十勝事業場(幸震)

ニ、同

(白人分場)

協議事項第五號 次回總會に關する件

第十二回總會感懐

總會開催に當り地元十勝鮭鱒養殖水産組合を始め十勝支廳、十勝水産會、帶廣市、帶廣商工會議所等地元団体及十勝事業場には熱誠なる御支援を賜はり無事大過なく終了し、殊に視察に當つては種々御便宜を圖られ誠に有意義なる一日を送りたるに參會者一同感激此に謹んで帶廣市の各位に厚く感謝する次第である。

時報

孵化場勤務雇傭法に對し福音を齎らさる

孵化場勤務の雇傭員が退職に際しその待遇方法に付近時股販産業勃興し特に農漁村勤務階級は時局下の恩恵に浴し、生活程度が非常に向上して居るに對し、その従事する仕事は全く年中半労働を強制せられ、然も邊僻の地に薄給に甘んじ資源維持に努むる孵化場員にとつては最も敬意を表せねばならないが、同時に雇傭員以下の職員が退職に際し、勤務地より立退く旅費にも窮する實狀に有るを鑑み、關係者は大分以前から論議の中心となつてゐたが本春開催せし本會總會に於て孵化場勤務雇傭員以下の退職に際し永年の孵化事業の對する功績に酬ゆる爲退職金を贈呈する事に満

十勝養魚協會主催にて養殖研究会を開催せらる

去る六月二日開催の本會總會には全道各地の養殖事業經營者が多數集まりたるを機會に翌三日十勝支廳會議室に於て十勝養魚協會主催にて養殖研究会を午前九時より開催せるが、出席者は道廳水産課野田技師及び北海道鮭鱒孵化場よりは内海囀託、石井虹別支場長外係官臨席、業者側からは地元外は明石幸輔氏外十四名、地元會員は松川會長外十一名にて左記の件に付午後三時閉會に至る迄終始熱心なる討議を爲し、淡水魚養殖知識向上に裨益する點多々あり、此種の催としては近來にない成功を収めた。

研究事項

- 一、養鯉餌料に関する件
- 二、虹鱒、河鱒卵共同購入に関する件
- 三、鯉稚魚購入に関する件
- 四、養殖資材に関する件
- 五、補助金に関する件

會員消息

野田 信俊 北海道鮭鱒孵化場長に榮轉
乾 文芳 石狩支廳技手に榮轉

場一致決議せられたが、之が贈呈方法等の具体案は目下事務當局に於いて立案中にて、今秋邊りから實施せられる事となるであらう。

枝幸大火の爲に罹災したる本會々員に見舞品贈呈す

本春未曾有の枝幸町大火の爲に罹災したる左記諸君に見舞品を贈呈した。

村山 喜作君 天野 佐市君 加賀谷與三郎君

北海道鮭鱒孵化場長に本會員

野田信俊氏榮轉す

客年九月齋藤前場長逝去以來半田水産課長が場長事務取扱となり専任場長欠員中の處去る七月三十一日附を以て本會員道廳水産課技師野田信俊氏が場長に榮轉せられた。尙氏は從來通り水産課の方も兼務にて隔日に双方に出勤せられる事になつた。

野田北海道鮭鱒孵化場長本會理事長に就任す

本會の理事長は本年改選期の際孵化場長を以て之を推薦する事に決議したる處、前項の通り野田信俊氏場長に就任したるを以て本會理事長に推薦せる結果就任の快諾を得今後益々本會の爲に盡力せられる事になつた。

新入會員

- 添田 潤助 北海道鮭鱒孵化場に轉出
- 高山 忠美 渡島支廳技手に轉任
- 野村 政 札幌市孵化器具商
- 酒井 一郎 北海道鮭鱒保護組合技手
- 紺野 一男 北海道鮭鱒孵化場温根沼事業場員
- 小野 眞一 北海道鮭鱒孵化場員
- 鳴海 雄三 北見國水産會技手
- 高野 喜三郎 北海道鮭鱒孵化場北見支場員
- 前田 珍男 同右

會費領收報告

- 昭和十三年度分 奥村 久雄 高瀬 新一
- 昭和十四年度分 山本喜一郎 田中林藏 谷口達三
- 野村 政 山本勝見 河村武雄
- 秋葉万次郎 高瀬新一 佐々木正三
- 小田部 敬止 關谷定雄 小路口傳三郎
- 中山 忠衛
- 和昭十五年度分

下山卯之松 飯塚周藏 高木爲吉 古都儀一 島立孫亥 高瀬新一
 蹴場富太郎 酒井一郎 三宅川 淺太郎 前田珍男 高野喜三郎
 紺野一夫 小野真人 長谷川 清吉 ◎會費未納の方は至急納入を乞ふ。

改良簡易孵化方法考案懸賞募集

一、旨 趣

時局下に於て從來の孵化器材材料は其の補給益々困難となるに依り之等材料を使用せずして出來得る簡易なる改良孵化方法の新考案を懸賞に依り募集せんとす

二、募集要項

- イ、応募者は原稿に住所氏名を明記する事
- ロ、締切は昭和十五年十二月十五日迄とす
- ハ、審査員は北海道鮭鱒孵化場、北海道鮭鱒保護協會及組合より適任者を選定す
- ニ、懸賞金は
 - 一等 百圓
 - 二等 五十圓
 - 三等 三十圓
- ホ、當選論文は鮭鱒彙報に掲載す
- ヘ、原稿送り先は札幌市外中の島北海道鮭鱒孵化場内

北海道鮭鱒保護協會

編輯後記

本誌は八月中に發行の豫定であつたが、原稿、寫眞等の蒐集の爲思はぬ遅延をした事は特に原稿を急いでお書き下さつた方々にお詫び申上げる。体裁も内容も前回の千歳記念號に劣らぬものにするつもりであつたが、資料が思ふやうに得られず、些か貧弱であつた事も會員諸氏に深くお詫びする次第である。本誌編輯に當り本場の内海大先輩を始め江口、沖津、荏原の諸氏及石井虹別支場長並に支場員の方々、鮭鱒保護組合の菊地、佐藤安史等の助力を得たことも尠くないが、特に内海大先輩には虹別支場に關する資料の大部分を提供せられ種々と御指導を賜はつた事に對して深く感謝の意を表するものである。又虹別支場生みの親たる根室鮭鱒養殖水産組合の稻垣組長、守谷、小池、藤本の諸氏よりは種々と御便宜を得た。尙本誌刊行の舉に賛成せられて多額の寄附せられた根室鮭鱒養殖水産組合、釧路水産會、厚岸鮭鱒養殖組合にも大いに感謝の意を表する次第である。(片山生)

鮭鱒孵化場に關係を持つた吾等としては先年の千歳孵化場の五十周年といひ、今回の虹別孵化場の五十周年共に衷心より慶賀に堪えない。そして是迄に成長した否成長せしめた歴代場員の方々には洵に感謝の念で一杯であり、偶然に本誌編輯の幾部を擔當して、更に一層其の感を深くするものである。科學の進歩せし今日でさへ町の眞中に孵化場を設けることは容易でない、孵化用水としての湧水を都會に求むることは得てむづかしいからである。

親魚の湧上する河川の上流へ／＼と上つてよき湧水を發見するならば如何に由間不便の處も厭はぬといふ五十年前すでに堅き信念によりて孵化場敷地を撰定された先人には頭の下がるものがある。凡そ鮭鱒親魚が上流に産床を求むるには夫れ／＼理由のあることで、此の自然を無視されぬところに微妙なる處がありと筆者は常に信じて居る。俄然虹別支場は湧水滾々實に天與の孵化場地として恵まれて居る。之が活用によりて更に發展の餘地無しとはせぬ切に場員各位の奮勵と當局が虹別

昭和十五年十一月十日印刷
 昭和十五年十一月十五日發行
 札幌市南十六條西四丁目五番地 編輯兼 半田芳男
 札幌市南二條西六丁目三番地 印刷人 山藤國八
 札幌市南二條西六丁目三番地 印刷所 山藤印刷合資會社 電話二六番
 札幌市外中之島 北海道鮭鱒保護協會 發行所 北海道鮭鱒孵化場内
 電話五三三九番 札幌市南小池二丁目八番

祝 虹別支創場立十五週年

根室鮭鱒養殖水產組合

組合長 稻垣 龍

釧路國水產會

會長 北原寅吉

厚岸鮭鱒養殖組合

組合長 淺野政勝

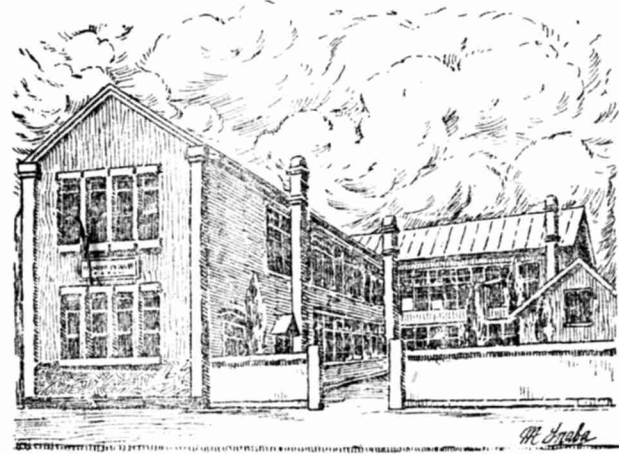
祝 虹別支創場立十五週年

北海道鮭鱒保護組合盟員合

根室鮭鱒養殖水產組合	天鹽鮭鱒養殖水產組合
擇捉島水產會	留夜別漁業協同組合
十勝鮭鱒養殖水產組合	歌棄漁業協同組合
紋別鮭鱒養殖水產組合	膽振水產會
網走鮭鱒養殖水產組合	遊樂部川鮭魚蕃殖組合
合名會社栖原商店	瀨棚郡漁業協同組合
釧路國水產會	浦河漁業協同組合
國後養殖水產組合	日高國水產會
栖原庸世	尻別川鮭鱒人工孵化組合
枝幸鮭鱒養殖水產組合	松崎助三郎
羅白鮭鱒養殖組合	荻伏漁業協同組合
栖原忠雄	新冠漁業協同組合
單冠灣養殖組合	三石漁業協同組合

— 祝 虹別支創場立十五周年 —

創立・明治二十九年九月
工場・三百五十餘坪
人員・七十五名



— 最古の歴史 —

— 最新の技術 —

札幌市南二條西六丁目

山藤印刷合資社會



代表者 山藤國八

電話 二六六番
振替 八七一七番

鮭・鱒・蟹・鰯・其他各種孵化器具製作
各種塗料並ニ孵化場用品

諸官廳御用達

野村商店

札幌市北二條東七丁目
振替小樽六八五一番

昭和十五年十一月十日 印刷納本
昭和十五年十一月十日 發行

弊所特製「漆塗孵化器」其他孵化器
孵化槽・孵化器・受卵器・各種染料
漆・アスファルト(流動)・テレピン油・塗料類
龜甲紗(卵掬用)・採卵海綿・標本瓶
卵消毒藥各種・化學藥品・醫療藥品
孵化場用印刷物一切・父子堂製劑
虹鱒・公魚・鮎・鯉等ノ孵化器器具一式

諸官廳御用達

鮭鱒孵化器製造元 山本勝見工作所

塗料部
藥品部

札幌市北三條東六丁目電停前
電話二五二七番
振替小楯三九七八番